

# 関西学院大学総合政策学部 Research Fair 2013 要旨集



## 「知の祝祭」リサーチ・フェア2013に寄せて

キャリア・パスとしての第一歩を！

リサーチ・フェア2013によろこそ

リサーチ・フェアも今年で16回目を迎えます。このリサーチ・フェアは色々な意味を持っています。例えば、「プレゼンテーションをおこない、その結果についてのコメントを聞く」場でもあります。ただ話すだけではなく、批評を聞いて、そしてそれを自分の仕事に活かす場です。

また、ある人にとっては、先輩の発表を聞き、自分の関心とすりあわせて、学科を選択したり、研究演習で選ぶべきゼミについて考える場でもあります。高校生で参加された方には、大学での勉強を垣間見て自らの進路を考える場でもあります。そして、卒業生の皆さんがキャンパスを再訪して、自らの仕事やキャリアを語る場としての「アポなしOBOG訪問」もあります。

できれば、皆さん一人一人が、リサーチ・フェアが持つ多様な意味をそれぞれの立ち位置で感じ取りながら、自らのキャリア・パスについて考える、そんな場になればと思います。

総合政策学部長 高畑由起夫

**開催：11月15日(金)、16日(土)**



主催：関西学院大学総合政策学部  
実施：リサーチ・フェア実行委員会

# — 目次 —

1	リサーチ・フェアの紹介	1
2	プログラム	2
3	会場図	4
4	1日目要旨	5
	◆EC Presentation	5
	◆口頭発表	6
	◆ポスター発表	16
	◆自由形式	20
5	2日目要旨	21
	◆口頭発表	21
	◆ディベート大会	25
	◆総合政策学部同窓会企画アポなしOBOG訪問	26
6	授賞式・懇親会	32



(写真は過年度)

## リサーチ・フェアの歴史と意義

リサーチ・フェアは、総合政策学部から初めての卒業生を送り出そうという1998年秋に、「卒業生の研究発表の場を設けたい」という故安保則夫先生からの提案で始まりました。なお、安保先生はこの学部の創設時からかわり、初代の学部長の天野明弘先生を支えられた後、第2代学部長を務められたのですが、学部長ご退任直後に急逝されました。

安保先生は最初、「ゼミ単位の発表を」とお考えでした。しかし、他の先生方から「うちのゼミではみんな違うことをしている」「どうせやるなら、個人で発表を」という意見が強く、「理系では当たり前のポスター発表や自由形式も採用すればなんとかなる」ととりあえず始めたのを覚えています。それから、様々な試みを経て、今年で16回を数えます。

その経緯を踏まえて、学生の皆さんにお伝えしたいのは以下の2点です。まず、リサーチ・フェアは教職員と学生のコラボレーションで始まりました。とくに、このイベントを始めた1期生の方々、彼ら／彼女らは“総合政策”というまったく新しい学部を手作りで作り上げていった人たちでしたが、リサーチ・フェアもまたその一つでした。しかし、10回を超える回数を経て、今や、リサーチ・フェアも「当たり前」の世界になってしまい、学生の皆さんからさらなるイノベーションを図ろうとする意欲がやや薄れてきた雰囲気を感じないわけではありません。そのあたり、皆さんの自発的な活動を強く望む次第です。関心がある方は、是非、リサーチ・フェア実行委員会に学生委員としてご参加いただければと思います。

もう一つは、このリサーチ・フェアが様々なネットワークの一つの要(かなめ)になっていることです。例えば、1～2年生は上級生の発表を参考に学科、ゼミを選択する。3～4年生はリサーチとプレゼンテーションの方法を実践して、卒業論文や卒業後の仕事に活かす。さらに卒業生の方々はこの日、キャンパスに戻って後輩(=皆さん)に自らの仕事を語り、皆さんは先輩の話から自らの進むべき道を選んでいく。ここ数年、高校からの発表者や見学者も増えました。そこに高校、大学、そして社会のつながりを見出す。それが大学が持つ本来の使命の一つ、リベラル・アーツ(教養)の一つの姿だと思えます。

さらに付け加えれば、学生の皆さんに今、本当に望みたいのは“聴く”ことかもしれません。リサーチ・フェアでもプレゼンテーションが中心となり、いきおい、みんな自分の表現に集中する。しかし、(卒業後の社会がまさにそうですが)、みんな一年中“プレゼン”しているわけではありません。

むしろ、相手の話を“聴く”、しかも相手の“真意”を感じ取る、そして議論を重ねて、それまで相手も自分も気づかなかった“新しい世界”に気づく。これがソクラテス以来の対話型ディスカッションの本質です。そして、それができる方こそ、「自分が生きている時代を生き抜く力」を身につけていると言えるでしょう。

そう考えると、リサーチ・フェアこそまさに絶好の機会です。ほかの学生・院生・教員が何を考え、何を伝えたいのか、そしてそれに自分はどうかどう応えるのか？ さらに議論の中から互いに思っても見なかった答えを探し出せるか？ という意味で、学問の新たな地平＝真のワンダーランドによろこそ！

# リサーチ・フェア2013プログラム(当日までに修正・変更等の可能性もありますので、ご注意ください)

時間	EC Presentation																			
	II-101	II-102	II-111	II-204	II-304	II-305														
9:00	<b>English Education</b> <i>Jeongsu Kim et al.</i>	<b>Overfishing</b> <i>Kosuke Kawakami et al.</i>	<b>Wind Power Generation</b> <i>Akiko Kaneshiro et al.</i>	<b>Nuclear Energy Use</b> <i>Haruka Komeyoshi et al.</i>	<b>Declining Population</b> <i>Junki Kawanishi et al.</i>	<b>Rights of Women</b> <i>Rinako Doi et al.</i>														
9:30	<b>GM Food</b> <i>Nodoka Sato et al.</i>	<b>Homelessness</b> <i>Kayo Sanshi et al.</i>	<b>Water Resource Management</b> <i>Misato Awai et al.</i>	<b>English Education for Young Learners</b> <i>Ryoma Yoshida et al.</i>	<b>Animal Testing</b> <i>Kirara Kura et al.</i>	<b>Lifestyle Related Disease</b> <i>Kaoru Inaoka et al.</i>														
10:00	<b>Rights of the Disabled</b> <i>Yukiko Ukei et al.</i>	<b>Animal Testing</b> <i>Atsushi Wakamoto et al.</i>	<b>International Child Custody Issues</b> <i>Chizumi Kitamura et al.</i>	<b>G.M.Foods</b> <i>Yu Tsukayama et al.</i>	<b>Obesity</b> <i>Kaito Suzuki et al.</i>	<b>World School Education</b> <i>Chinatsu Ishikawa et al.</i>														
10:30	口頭発表				大学院発表		自由形式													
	A会場 (II-101)	B会場 (II-102)	C会場 (II-111)	D会場 (II-201)	E会場 (II-204)		II-105	II-107	II-108	II-109	II-112	II-203	II-205							
11:00	A101 ご当地キャラクターと地域の活性化 藤森雄也(総政3年)他	B101 三田市における次世代子育て指針 村尾和香(総政3年;山根ゼミ)他	C101 Going Green! 加志村拓(総政3年;朴勝俊ゼミ)他	D101 第2のオサマ・ビン・ラディンは現れるのか? 林里紗子(総政3年;井上ゼミ)他	院1 上海における中小企業への振興政策 孫琰(総政M2)		Prologue to the Cool Network (by 都市研究会)	『私たちが創るサポート』過去、現在そして未来へ』	韓国語学習アプリの開発	新生する白山麓実習プロジェクト	3Dの世界を体験してみよう	阿蘇の草原まるわかり情報室	クメ用デバイス							
11:30	A102 関西えもん発見隊 片山翔太(総政3年)他	B102 イクメンです! 丸岡ひかる(総政3年;細見ゼミ)他	C102 公園内花壇を利用したオキナグサ保護への提案 垣内万季(総政3年;佐山ゼミ)他	D102 姿の見えない殺人機 小谷さゆり(総政3年;小池ゼミ)他	院2 生活保護制度の各論整理と研究課題 八並 剛志(総政M1)									11:00-12:00	11:20-11:40	11:00-12:00				
12:00	A103 笠岡市を元気にしよう 下鶴瀬里菜(岡山龍谷高校2年)他	B103 女性の自由なキャリア選択に向けて 野中日香里(総政4年;小西ゼミ)他	C103 西淀川公害とそこから見えてくる課題 富本亮太(総政3年;朴ゼミ)他	D103 日本のミャンマーに対する外交政策 高木義万(総政3年)他	院3 学生ボランティアの参加動機に関する研究 狩野仁哉(総政M2)															
12:30	A104 観光立国で日本を元気にする方策について 松村未来(総政3年;長峯ゼミ)他	B104 女性が握る日本経済の鍵 常味麻衣(総政3年)他	C104 行動力と活力のある未来を目指して 志波澤美歩(京都学園高校1年)他	D104 あなたの隣に難民奨学生 中飯隆太(総政4年;小西ゼミ)他	院4 町づくり交流活動で町並みが維持できるか 魏小娥(総政D3)															
13:00	A105 日本への観光誘致プロジェクト 松本翼(総政3年;伊佐田ゼミ)他	B105 日本再生のためのマクロ経済政策 松田有可(総政3年;長峯ゼミ)他	C105 KSCはローカル化しているのか? 坂本珠里(総政3年;山田ゼミ)他	D105 中国の出稼ぎ労働から生じる留守児童問題 林利憲(総政2年)他	院5 中心市街地と大型商業施設の共生 松田卓也(総政M2)															
13:30	A106 非日常的空間の演出 宮地茉耶(総政3年;山根ゼミ)他	B106 カジノが被災地を救う 奥野翔平(総政4年;中野ゼミ)他	C106 大学生の授業選択の在り方を考える 若山和樹(総政4年;伊佐田ゼミ)	D106 先進国と発展途上国の医療格差をなくすために 岡田侑希(京都学園高校1年)他	院6 大阪オフィスエリアにおけるコンバージョン有効性研究について 垣尾俊彰(総政M2)															
14:00	ポスター発表ディスカッションタイム (タイトル・発表代表者は下に掲載)																			
14:30	ポスター発表ディスカッションタイム (タイトル・発表代表者は下に掲載)																			
15:00	A107 お酒の政権交代!? 黒木海任(総政3年;宮川ゼミ)他	B107 少年犯罪をなくすために 直井莉央(岡山龍谷高校2年)他	C107 成績評価 山村綾花(総政3年;窪田ゼミ)	D107 国際協力への道 岡本風花(総政3年)他	院7 武庫川流域の土地利用変遷に都市計画が及ぼす影響とその要因 上野紗恵(総政M1)															
15:30	A108 食による地域活性化 黒木翼(総政4年)他	B108 若人よ、結婚したくはないか 村上祐哉(総政3年;細見ゼミ)他	C108 成績評価 大上賢汰(総政3年;窪田ゼミ)他	D108 TPPIにおける難攻交渉分野 山橋勇輝(総政3年;眞壽田ゼミ)他	院8 三田市の地域における防災への取り組み方 孫晶晶(総政M1)															
16:00	A109 伝統の町屋から現代の町屋へ 前友紀乃(総政3年;清水ゼミ)他	B109 キラキラネームが輝く日本へ 五百崎美佑(総政3年)他	C109 荷物とどるな!パソコン座席 巽加奈恵(総政3年;窪田ゼミ)他	D109 中国のチャーム・オフense戦略に迫る 小林千夏(総政3年;井上ゼミ)他	院9 緊急時避難動線からみた特別養護老人ホームの建築計画について 井上統一郎(総政M2)															
16:30	A110 居住文化の変化と保存 黒田翔太郎(総政3年;清水ゼミ)他	B110 かばた文化から物語る公共性 杉本智弘(総政3年)他	C110 データベースで何が出来る? 藤田勤介(総政4年;伊佐田ゼミ)	D110 日本大進撃論 綱島康之(総政3年;長峯ゼミ)他	院10 Recent Trend of Canada's Environmental Assessment System 大高茜(総政M2)															
17:00	A111 JR三田駅前周辺における場の再編計画 山田恵理(総政3年;八木ゼミ)他	B111 意匠権 津田大介(総政3年)他	C111 電子楽譜の可能性 根来鈴(総政4年;伊佐田ゼミ)	D111 リア充・非リア充における購買行動の違いを利用したマーケティング戦略の立案 片芝亮友(総政3年)他	院11 社会的リスクの法的責任 竹内宏規(総政M2)															
17:30	A112 仮設住宅における住民のコミュニティ形成 狩谷光帆子(総政3年)他	B112 電子書籍の普及と出版業界の関係 森田裕介(総政3年;眞壽田ゼミ)他	C112 外国人旅行者に充実したWiFiサービスを 李沙耶(総政3年)他	D112 SAKE革命 門脇哲平(総政3年;古川ゼミ)他	院12 A virtual mirror for the study of historical fashion 曹静(総政M2)															
18:00	A113 既成市街地の都市景観 青木嵩(総政4年;角野ゼミ)	B113 格安航空券の間 中野竜太(総政3年;井垣ゼミ)他	C113 TPPコメ自由化による日本経済への影響 佐藤功一(総政4年;中野ゼミ)他	D113 日本のユニクロ、世界一位への実現構想 濱崎千伶(総政3年;中野ゼミ)他	院13 スマートフォンを使って全国的な学術調査を行う方法 M2 米田卓史(総政M2)															

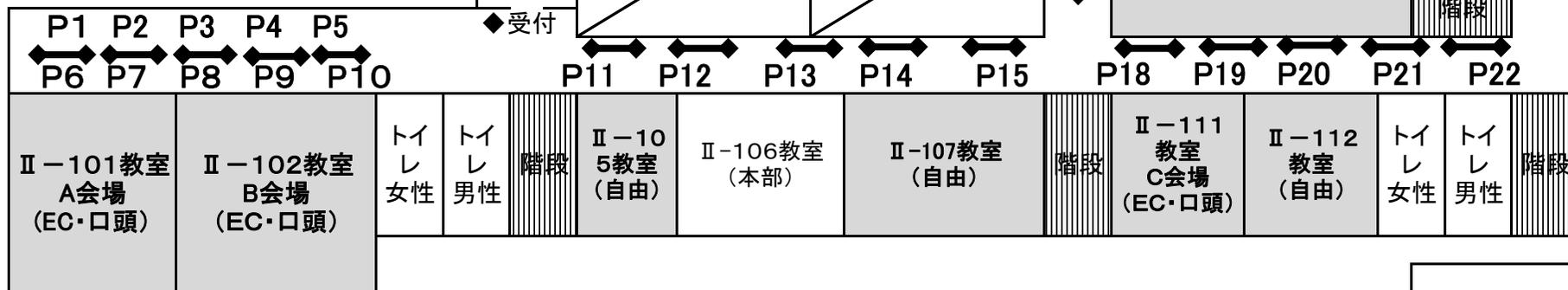
ポスター発表(ディスカッションタイムは14:00-15:00)								
No.	発表者	タイトル	No.	発表者	タイトル	No.	発表者	タイトル
P1	田中琴奈(総政3年;長谷川ゼミ)他	オリンピック開催地はどのようにして選ばれるか	P12	平井翔也(総政3年;山田ゼミ)他	三田市における給油所過疎地に関する研究	P23	岡育実(総政3年)他	何とかしたい、タバコのポイ捨て!
P2	古堅みのり(総政4年)	Webサイトにおける色彩とデザインの重要性	P13	岸田亜咲実(総政3年;山根ゼミ)他	都市イメージと広告	P24	秋田美帆(総政3年;宮川ゼミ)他	もののけ姫太郎の河川リポート
P3	五太代祐里(総政3年)他	韓国進出に向けた中小企業の経営戦略	P14	中崎裕子(総政3年)	ウミガメに人が集まる町	P25	丸山泰輝(総政3年)他	2020年東京オリンピックによる葛西の野鳥の生息地の危機
P4	Rayan Alamoudi(総政M1)	Islamic Finance and International Financial System	P15	吉田翔平(総政4年)	よさこいを通して地域活性化	P26	小林真洋(総政3年;客野ゼミ)他	エネルギーを栽培する住居
P5	田邊由佳(総政4年;李ゼミ)	その就職先、間違ってますか?!	P16	原田悠里(総政4年;齊藤ゼミ)	“ささやま”なコミュニティー	P27	大塚菜美子(総政4年)他	Webサイトにおけるデザイン及びコンテンツが与える効果
P6	猪崎真理子(総政1年)他	聞き書き	P17	矢野遼太郎(総政4年;伊佐田ゼミ)	カラオケ店の売上増を目的とした他店との優位性を図る戦略の考案、調査	P28	竹田温美(総政3年;西野ゼミ)他	シンズリ道路建設プロジェクトにおける効果とさらなる発展のための課題
P7	大木千種(総政3年)他	食から見るタイとカンボジア	P18	西口真也(総政M2)	我が国の観光振興政策における美術館の位置づけに関する研究	P29	廣間千聡(総政4年)	ユーザビリティの視点からニュースサイトを再考する
P8	前田真佑(総政3年;今井ゼミ)他	持続可能な観光	P19	大久保舞(総政3年;加藤ゼミ)他	田舎に魅せられて	P30	石本善大(総政4年)	総政向けKGキャリアナビの提案
P9	十川貴裕(総政3年;加藤ゼミ)他	日本はイタリアになれるか	P20	太田知佐(総政3年;馬場ゼミ)他	南海・東南海地震に向けて	P31	今中葛加(総政3年)他	ドラマは社会的情勢をどのように反映しているのか。
P10	大森正江(総政3年;角野ゼミ)他	地方都市を救え!	P21	福西恵理(総政3年;山根ゼミ)他	建築を想う	P32	森本風子(総政3年)他	危ない
P11	土居知広(総政3年;客野ゼミ)他	地域×道の駅=?	P22	井上統一郎(総政M2)	岡山県北エコネットワーク			

時間	口頭発表				大学院発表	ディベート大会予選		
	A会場 (II-101)	B会場 (II-102)	C会場 (II-111)	D会場 (II-201)	E会場 (II-204)	II-205	II-206	II-209
9:00	A201 できてます? 人との会話で意志疎通 白石直希(総政3年;鎌田ゼミ)他	B201 インドネシア、ジャワにおける地域コミュニティの動き 水野久仁香(総政4年)	C201 今でしょ? アジア共通通貨 岸本夏子(総政3年;坂口ゼミ)他		院14 大地に還る、樹木の下で。 吉川亮(総政M1)			
9:30	A202 「知る」を知ろう 齋藤僚太(総政3年;鎌田ゼミ)他	B202 甲子園の改善 住田昂一郎(御影高校2年)他	C202 「国民に分かりやすい債権法改正」は必要か、またそれは可能であるか。 松山謙一(法3年;原田ゼミ)他		院15 中国の中小企業に求められる経営戦略 陳思佳(総政M2)			
10:00	A203 迫るマトリクス化 細井美里(総政1年;鎌田ゼミ)他	B203 グリーンツーリズムによる地域活性化の可能性 松尾秀貴(総政3年;齊藤ゼミ)他	C203 債務不履行の帰責事由の有無について 田中達也(法3年)他		院16 世界文化遺産の観光開発における観光的環境の研究 高瑞(総政M2)	柴山ゼミ×山田ゼミ 10:00~10:30		井上ゼミ×関根ゼミ 10:00~10:30
10:30	A204 関学留学生日本語能力を向上させる提案 任徳盛(総政4年;伊佐田ゼミ)	B204 こんなところにパワースポット!? 平野克弥(御影高校2年)他	C204 TPP参加で日本の農業は強くなる グエンズイクオン(総政3年;坂口ゼミ)他		院17 環境税は地球温暖化に効果がないのか 廣瀬雄一(総政M1)	松村ゼミ×安ゼミ 10:30~11:00		西野ゼミ×四方ゼミ(3限) 10:30~11:00
11:00	A205 日本におけるマイノリティ報道の現状と課題 興津洋樹(法4年;岡本ゼミ)他	B205 KSCハザードマップの提案とこれを用いた大学生の防災意識の向上 細川茜(総政3年;客野ゼミ)	C205 危険負担の廃止と解除 竹内拓磨(法3年)他		院18 アマチュア無線は防災に役立つのか? 仲田 周祐(元総政院生)	休憩15分		
11:30	A206 日本の難民政策の問題点とその解決策について 天宅佐季(法3年;水戸ゼミ)他	B206 「優しさ拠点」としての商店街 飯尾祐介(東海高校2年)	C206 現代社会における消費サイクル 山本久瑠美(総政1年;鎌田ゼミ)他		院19 大部制を中心としての中国行政改革 郭威(総政M1)	柴山ゼミ×坂口ゼミ 11:15~11:45		関根ゼミ×四方(3限)ゼミ 11:15~11:45
12:00	A207 テロ vs. 国家 スミス・ジュリエット(神市外大3年)他	B207 ポートライナーの利用者を増やすために 本田陽香(御影高校2年)他	C207 Water in PNG 行本良子(法3年;水戸ゼミ)他		院20 日系小売業の海外進出における経営戦略 徐潔(総政M1)	松村ゼミ×小西ゼミ 11:45~12:15	四方ゼミ(1限)×清水ゼミ 11:45~12:15	井上ゼミ×西野ゼミ 11:45~12:15
12:30	A208 平和のための憲法改正 清水将太郎(総政3年)	B208 公益法人等の東日本大震災での支援活動 谷政敏(法学研究科M1)他	C208 朝型であなたも自分磨き 松崎椋亮(総政3年)他			休憩15分		
13:00	休憩・昼食					山田ゼミ×坂口ゼミ 12:30~13:00	四方ゼミ(1限)×齊藤ゼミ 12:30~13:00	関根ゼミ×西野ゼミ 12:30~13:00
13:30						安ゼミ×小西ゼミ 13:00~13:30	清水ゼミ×齊藤ゼミ 13:00~13:30	井上ゼミ×四方ゼミ(3限) 13:00~13:30
14:00	総合政策学部同窓会企画「アポなしOBOG訪問」 (Academic Commons)					休憩・昼食		
14:30						準決勝		
15:00						Aブロック1位×Bブロック1位 14:30~15:00	Cブロック1位×Dブロック1位 14:30~15:00	
15:30								
16:00	ディベート大会決勝(16:00~16:30;第3厚生棟)							
16:30	表彰式・懇親会(第3厚生棟を予定)							
17:00								
17:30								

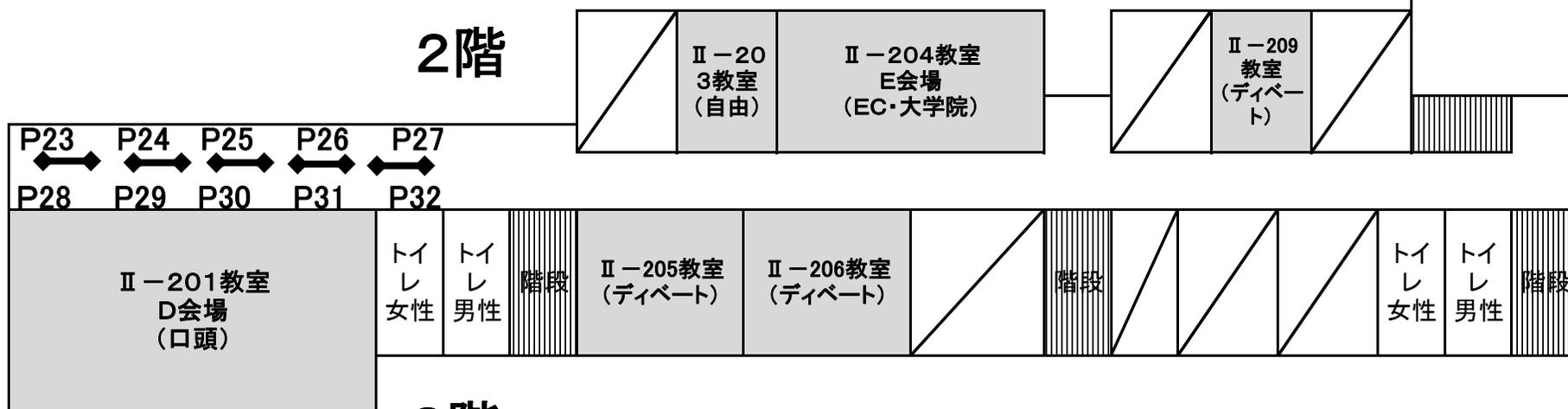
第2日(一月六日「土」)

# リサーチ・フェア2013会場案内図

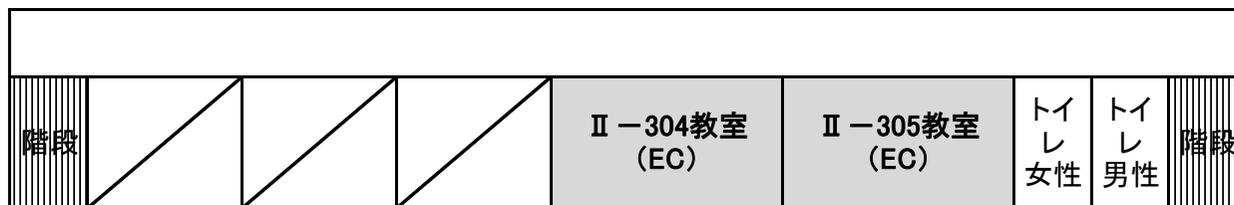
## Ⅱ号館 1階



## 2階



## 3階



口頭: 口頭発表

P: ポスター発表

自由: 自由形式

EC: English Communication Presentation

総合政策学部同窓会OB・OG企画「アポなし先輩訪問」はAcademic Commonsで開催

# Research Fair 第1日 (11月15日 [金] )

## Research Fair EC Presentation Schedule 2013

(9:00~10:30)

教室	9:00~9:25	9:30~9:55	10:00~10:25
II-101	<b>English Education</b> <i>Jeongsu Kim</i> <i>Ai Kitagu</i> <i>Risa Kuniyoshi</i> <i>Yoshie Ikezawa</i>	<b>GM Food</b> <i>Nodoka Sato</i> <i>Momoka Shinagawa</i> <i>Hikari Hamada</i> <i>Serina Matsuzawa</i>	<b>Rights of the Disabled</b> <i>Yukiko Ukei</i> <i>Eriko Inoue</i> <i>Yuko Mori</i>
II-102	<b>Overfishing</b> <i>Kosuke Kawakami</i> <i>Misaki Makiko</i> <i>Yurino Sanada</i> <i>Terumasa Imai</i>	<b>Homelessness</b> <i>Kayo Sanshi</i> <i>Rina Ikegami</i> <i>Saori Okuno</i> <i>Ayaha Ogasawara</i>	<b>Animal Testing</b> <i>Atsushi Wakamoto</i> <i>Kotaro Sato</i> <i>Madoka Asa</i>
II-111	<b>Wind Power Generation</b> <i>Akiko Kaneshiro</i> <i>Ayako Takayama</i> <i>Chizumi Hara</i>	<b>Water Resource Management</b> <i>Misato Awai</i> <i>Koyo Takuma</i> <i>Chiaki Shibayama</i> <i>Yukie Hamakawa</i>	<b>International Child Custody Issues</b> <i>Chizumi Kitamura</i> <i>Minako Tanimura</i> <i>Marina Goto</i> <i>Chie Yoshida</i>
II-204	<b>Nuclear Energy Use</b> <i>Haruka Komeyoshi</i> <i>Ayaka Myoki</i> <i>Sakiko Koshiba</i> <i>Ayaka Mori</i>	<b>English Education for Young Learners</b> <i>Ryoma Yoshida</i> <i>Tomohiro Morita</i> <i>Shingo Domoto</i> <i>Katsuhisa Tanaka</i>	<b>G.M.Foods</b> <i>Yu Tsukayama</i> <i>Manami Noji</i> <i>Sota Okada</i> <i>Shinya Kitada</i>
II-304	<b>Declining Population</b> <i>Junki Kawanishi</i> <i>Ryosuke Inoue</i> <i>Yuki Ishida</i> <i>Naoki Iwatani</i>	<b>Animal Testing</b> <i>Kirara Kura</i> <i>Aika Okijima</i> <i>Yuka Shiba</i> <i>Masahito Tateishi</i>	<b>Obesity</b> <i>Kaito Suzuki</i> <i>Kensaku Okamoto</i> <i>Mayo Onishi</i> <i>Ayumi Kuroda</i>
II-305	<b>Rights of Women</b> <i>Rinako Doi</i> <i>Taito Suzuki</i> <i>Eri Kusaka</i> <i>Mai Suzuki</i>	<b>Lifestyle Related Disease</b> <i>Kaoru Inaoka</i> <i>Takuma Miyata</i> <i>Hayato Inoue</i> <i>Megumi Mukogawa</i>	<b>World School Education</b> <i>Chinatsu Ishikawa</i> <i>Hikari Takagi</i> <i>Yuki Tanaka</i> <i>marie Kakuda</i>

第1日(11月15日)口頭発表A会場(Ⅱ号館101教室)

11:00	<p><b>ご当地キャラクターと地域の活性化～ゆるキャラの実態に迫る！～</b>  藤森雄也(総政3年)・多田麻衣子・石村薫里・矢野夏輝</p> <p>近年では「ご当地キャラ」や「ゆるきゃら」と呼ばれるような、その地域の特産品や特性をモチーフにしたキャラクターが人気を博している。たとえば熊本では「くまモン」というゆるキャラが熊本県の観光大使として全国的に注目されている。本研究では、このようなキャラクターの知名度やそれぞれの地域に対するイメージ(住みたいか・訪れたいか・親しみを感じるか等)を、アンケート調査により調べ、ご当地キャラクターが地域のイメージの向上へ貢献しているか否かを検証する。</p>
11:30	<p><b>関西ええもん発見隊 ～Facebook活用による特産品PR手法の検討～</b>  片山翔太(総政3年)・米坂千帆子・山崎晶紀・堀越なつめ・長谷川絢</p> <p>近年、台湾から注目を浴びている日本。彼らが魅力としているのは、首都圏に存在する名所のみならず、地方に存在する歴史的建造物であったり地方特有の食であったりする。そこで我々は地方、特に我々の住む関西圏にフォーカスを置き、台湾人にはまだ知られていない各地域の情報を提供していこうと考えた。伝達手段として、台湾では最もポピュラー、且つ最も使われているSNSであるFacebookを活用することにした。我々のプロジェクトは、該当地域の都市間競争力の向上とFacebookを活用したPR手法の模索を図るのが目的である。</p>
12:00	<p><b>笠岡市を元気にしよう～人口減少問題から考えたこと～</b>  下鶴瀬里菜(岡山龍谷高校2年)・井上真由子・葛間志乃・関藤古都乃</p> <p>私たちの通う岡山龍谷高校のある岡山県笠岡市は人口減少の問題を抱えている。そこで今回、わたしたち笠岡市民にもできる人口増加につながる活動は何かをテーマに考えた。市は昨年、道の駅をつくったがなかなか思うような効果を得ることはできていない。他にもいくつかの案があげられているが金銭的に豊かではないことが理由に実行には到っていない。この問題を解決するには観光客をふやすことが第一の課題である。お金をかけずに観光客をふやすために、もともとある設備を利用してイベントを催していくことを提案する。それにより、笠岡を訪れる人が増え人口増加につながるだろうと考えた。</p>
12:30	<p><b>観光立国で日本を元気にする方策について～イスラム教徒へのおもてなし～</b>  松村未来(総政3年;長峯ゼミ)・山千代梨紗・東村和哉・福原真太郎・土井悠也・小林剛士</p> <p>日本経済の活性化のツールは「観光」であり、「観光立国ニッポン」はアベノミクス成長戦略の重点分野である。日本の観光資源などのポテンシャルを活かし訪日外国人消費額の増加が目標である。日本への関心を持たせ、外国人観光客を呼び込み、日本を観光立国にするためのプランにより、その経済的な効果を利用して日本を元気にする。ここでは、世界人口の約4分の1を占め、訪日者数が多くないイスラム圏の国に注目して方策を考える。日本が観光立国を高々と宣言できれば、おもてなしの国として世界中から注目を集めることができるだろう。</p>
13:00	<p><b>日本への観光誘致プロジェクト～日本全国うるおしツアー～</b>  松本翼(総政3年;伊佐田ゼミ)・樋口竜馬・張超・棚原愛未</p> <p>台湾から日本を訪れる観光客は増加しており、海外からの訪日観光客数を見たときに、台湾はアメリカやヨーロッパの国々を抑えて、1位になっている。そこで、さらに台湾からの観光客数を増加させるためには、どのような手法で、どこに着目すればいいのか、また台湾からの訪日観光客が、どの地域に多くて、どの地域には少ないのかという調査やアンケートを行い、その結果から、日本全国をうるおすことのできる「ツアー」を提案する。</p>
13:30	<p><b>非日常的空間の演出～祭りの屋台の配置に規則性はあるのか～</b>  宮地茉耶(総政3年;山根ゼミ)・早川真央・深水広大・藤田晴彦</p> <p>非日常的空間はどのようにつくられているのか。非日常的空間の1つとして祭りが挙げられる。非日常的空間を構成するものとして屋台に焦点を絞る。そこで我々は、「屋台の配置には経済的な利益やにぎわいを創出するため規則性がある」という仮説をもとに研究を行った。しかし、調査を行ったところ全く違う事実が判明した。出店の起源、縁起をかついでくる人々、売れる場所、少子化の中での屋台、企業による屋台への進出等、屋台の本当の事実を解明し、非日常的空間について考える。</p>

15:00	<p><b>お酒の政権交代！？～若者のビール離れの要因を探る～</b>  黒木海任(総政3年;宮川ゼミ)・石井美鈴・服部佳那子・中村朱里</p> <p>近年、日本国内におけるビール類の出荷数は減少傾向にあり、酒類業界の間で「ビール離れ」という言葉が飛び交うようになった。特に若者の間では、「とりあえず生で」というある種の不文律が守られていないことが多いといわれている。本研究では、一般市民(成人)を対象にアンケート調査を行い、お酒を飲む頻度、よく飲むお酒、ビールのイメージ等を尋ねた。調査の結果から、若者のビール離れの現状を明らかにするとともに、ビール離れの要因がビールに対するイメージにあるという仮説を検証する。</p>
15:30	<p><b>食による地域活性化～街にどのような効果を与えるか～</b>  黒木翼(総政4年)・田中邦昂</p> <p>近年、地方から都市部への人口の流入が問題となっている。これにより、地方の過疎化が進み、様々な問題が生じてくる。その一つが、商業・産業の衰退である。一定の人口を有していたから成り立っていた商店のような商業は、売り上げが減少し、厳しい経営状態となる。また、生産人口が減ることで、産業を行うための従業員を確保できなくなる。このように地方の経済活動が窮地に立たされている中で、B級グルメを用いた食による街の活性化が注目を浴びている。この活動が地方部にどのような効果を与えられているのかの調査を行った。</p>
16:00	<p><b>伝統の町屋から現代の町屋へ～変化していく京町屋style～</b>  前友紀乃(総政3年;清水ゼミ)・文元愛実・李鵬飛</p> <p>近年、町屋をはじめとする“和”を見直すブームに乗って、町屋を再生利用したカフェやゲストハウスなどが増え、注目されている。ここ数年で報道に取り上げられる機会が増えてきたことで知名度があり、木造建築の快適な住み心地の見直しが行われるようになった。そこで私たちは、京都市西陣地区でインタビューを行い、町屋の文化と伝統を、これから先の将来にも継承していくために、町屋の新しい在り方について考えていく。</p>
16:30	<p><b>居住文化の変化と保存～京都・上京区の町屋を事例に～</b>  黒田翔太郎(総政3年;清水ゼミ)・天野芽委・松下侑莉子</p> <p>京都市上京区は、市の中心部に位置し、今もその京都固有の文化は色濃く残っている。また、歴史的な家屋である町屋が京都市内で最も多い地域である。中でも上京区の西陣といわれる地域では、日本の伝統産業である西陣織や昔ながらの居住文化が多く残っている。しかし、歴史的景観の保存と現代のライフスタイルの変化に合わせた住まい方をどう担保していくかが問題である。そこで今回は京都市上京区の居住文化の変化と保存について、まちづくりの活動を積極的に行っている市民の方と京都市役所へのインタビューにより考察し、新たな提案を行う。</p>
17:00	<p><b>JR三田駅前周辺における場の再編計画</b>  山田恵理(総政3年;八木ゼミ)・梅田朋佳・辻本和也・上田滉己・木村綾夏・鳥越美帆</p> <p>私たちのキャンパスのある三田市は昭和55年以降、北摂三田ニュータウンとして郊外型ニュータウンとしての開発が活発化し、昭和62年から平成8年にかけて人口増加率が10年連続で全国1位となる大変人気の高い地域であった。しかし、他地域同様バブルの崩壊と共に計画されていた開発は滞り、現在ではJR三田駅前の活気あつた商店街もシャッターが閉じられた商店が点在する様相を呈している。この駅前周辺を対象として、「商業の場の再編」の提案を行う。</p>
17:30	<p><b>仮設住宅における住民のコミュニティ形成</b>  狩谷光帆子(総政3年)・藤原崇文・弘中俊輔・松尾洋平(総政4年)</p> <p>「絆」という文字が2011年の今年の漢字に選ばれたように、東日本大震災の復興においてお互いが助け合うことでとても重要なものとなった。確かに避難所生活では助け合いの精神が見られた。しかしながら、仮設住宅のコミュニティは多くの課題が残っている。私たちは文献調査や行政が行ったアンケートをもとに仮設住宅のコミュニティの状況を調べ、仮設住宅でのコミュニティのあり方を考える。その上で、奈良県十津川村や海外の復興計画を調査し、どのようにすれば私たちが考えるコミュニティになるかを政策立案する。</p>
18:00	<p><b>既成市街地の都市景観～都市景観思潮と現存する規制内容～</b>  青木嵩(総政4年;角野ゼミ)</p> <p>歴史的価値が認められるわけではなく、経済や政治の中心として発展しているわけでもない。しかしながら、ニュータウンのように新しく開発されるのではなく、すでにその地には人々の歴史と暮らしが存在している。そのような都市空間＝既成市街地において必要とされる景観及び景観規制とは何か。本発表では、現存する既成市街地への景観規制例をもとに、高度経済成長後の景観思潮の変遷と、都市計画学以外の学問的知見から既成市街地に求められる景観の役割と既成の重要性を紐解いていく。</p>

第1日(11月15日)口頭発表B会場(Ⅱ号館102教室)

11:00	<p><b>三田市における次世代子育て指針</b>  <i>村尾和香(総政3年;山根ゼミ)・小原志世</i></p> <p>三田市は1980年代からの北摂三田ニュータウン開発のおかげで、1988年から10年連続で人口増加率日本一となったが、その後低迷している。もう一度三田市を活性化させるには、納税者の増加が必要だ。今回は子を持つ親をターゲットとし、親が子育ての見本となるような教育の指針を考案する。これを参考に親が子供の教育を考えることで子育ての悩みの軽減に繋がるのではないだろうか。私たちは実際に三田市の多世代交流館にて、アンケート調査を行い、この集計データ等を参考に次世代の教育の指針を考察する。</p>
11:30	<p><b>イクメンですね！～いい父親はNOTイケメンBUTイクメン～</b>  <i>丸岡ひかる(総政3年;細見ゼミ)・菅沼美央・藤原大輝・北本里咲・梅田翔大・濱崎千怜</i></p> <p>「イクメン」という単語をあなたは知っていますか。この単語を聞いてあなたはなにを思い浮かべますか。「イクメン」を知る人がふえてきているにも関わらず、日本では育児休暇制度を取得する男性はまだまだ少ないのが現状です。どうすれば日本の男性が育児休暇を取りやすくなるのか。この疑問に私たちは答えます。将来育児休暇制度を利用したいと思っている男性、旦那さんに育児を手伝ってほしいと思っている女性、そして将来親となる全ての人へ、日本のよりよい育児の在り方をお届けします！</p>
12:00	<p><b>女性の自由なキャリア選択に向けて～企業と教育から見た課題と政策提案～</b>  <i>野中日香里(総政4年;小西ゼミ)・猪原陽子・大倉千佳・太田明日香</i></p> <p>みなさんは、自分のキャリアについて真剣に向き合ったことがあるだろうか？グローバル化やダイバーシティが推進されている中で、日本の女性の社会進出は海外に比べて遅れをとっている。この原因を探るため、企業と教育という2点から調査を行い、国・企業といったレベルから改善点を見つけ出し、すべての若者が活躍することが可能な政策提案を行う。このプレゼンテーションを通して、これからの自分のキャリアについて一度立ち止まって考えてみてはどうだろうか。</p>
12:30	<p><b>女性が握る日本経済の鍵</b>  <i>常味麻衣(総政3年)・小田健一郎・山崎奈津美・永山正和</i></p> <p>日本は経済面や技術面で世界の先頭に立つ国だ。しかし、ジェンダー問題に関してはどうか。「ジェンダーギャップ指数ランキング(2012)」では、日本は調査対象国135か国中101位という結果であった。このように、実際には多くの発展途上国よりも男女格差が指摘される。どうすれば日本からその格差を減らすことができるだろうか。</p>
13:00	<p><b>日本再生のためのマクロ経済政策～財政支出改革としてのPPP～</b>  <i>松田有可(総政3年;長峯ゼミ)・泉田香穂・泉本友樹・窪日嵩・久保文弥・森田万葉</i></p> <p>政府債務残高が、2013年6月末時点で1008兆6281億円になったとの財務省発表が本年8月にあった。そのような中、昨年度末に発足した第二次安倍内閣は、金融政策・財政政策・成長戦略からなる3本の矢を放つことで、デフレ脱却を目指す「アベノミクス」を進行中である。しかし、これらの政策だけではなく、財政支出のあり方そのものについても考えなければ、日本の財政赤字は膨らむばかりである。これ以上政府債務を増やさずに、いかにして効率よく政策を選択し実施していくのかが、今後の日本再生の鍵を握ると言える。本報告ではマクロ経済政策を再検討することから、日本再生に向けての提案を行う。</p>
13:30	<p><b>カジノが被災地を救う～震災復興にカジノは有効か？～</b>  <i>奥野翔平(総政4年;中野ゼミ)・佐藤功一・西川浩也</i></p> <p>私たちは積極的に震災復興ボランティアに関わり、個人レベルでの復興に微力ながら貢献してきた。と同時に、個人でできることへの限界を感じ、「もっと政策的な観点から震災復興について調査・研究をしていくべきなのではないか？」という考えを抱くようになった。議論を重ねた結果、「経済復興という観点において、カジノ導入という政策が有効ではないだろうか」という見解を抱き、様々な調査・研究を行った。今回は、産業連関分析を用いて、被災地にカジノを含む大型複合施設を建設した場合の日本経済に与える影響などを検証していく。</p>



15:00	<p><b>少年犯罪をなくすために～少年犯罪の現状を考察して～</b>  直井莉央(岡山龍谷高校2年)・麻生萌・荒谷仁美・笹井祐美</p> <p>少年犯罪の現状はどうなっているのか。日本の少年院出所者の再犯率が、2010年で42.7%と統計を取り始めて以来過去最悪を記録した。また少年法では、罪を犯した時に18歳未満であった少年の量刑に関して、死刑をもって処断すべき場合は無期刑にしなければならない。以上の現状から、私達は少年法の2つの改正案を提示する。重犯罪には原則として少年法を適用せず、成人と同じ法で裁くこと。そして少年法の適用を18歳(高校三年生)までとすることである。私達は少年犯罪について、もっと深く関心を持つべきである。</p>
15:30	<p><b>若人よ、結婚したくないか</b>  村上祐哉(総政3年)・細見ゼミ・尾形翔輝・久保ゆりか・宗政佑実・田口亜文</p> <p>現代の日本で、なぜ結婚に消極的な人々が増加しているのか。2010年の「子ども・子育て白書」には、結婚することで自由な生活を失うこと、経済力などの不安が挙げられます。殆どの子どもは、結婚をした男女から誕生しています。つまり、結婚する人が減ると、子どもの出生率も下がる。そのため、少子化等の要因の一つに、日本における結婚への意識低下があると考えられます。私たちは結婚に関するアンケートを基に、果たして本当に人々の結婚への意識が低下しているのかを調べ、その上で結婚する人が増えるにはどうすればいいのかを考えます。</p>
16:00	<p><b>キラキラネームが輝く日本へ～どこまで規制を強いるのか？～</b>  五百崎美佑(総政3年)・河野美咲・佐伯祐佳・原田拓英・村井心子・諸吉恵</p> <p>あなたはキラキラネームをご存知ですか？キラキラネームとはキャラクターの名前や当て字を用いた名前、一見して正確に読み取ることのできない名前のことです。近年、日本ではキラキラネームが子どもの本名として使用されるケースが増加し、この名前が彼らの人生に大きく影響する可能性があるかと懸念されています。私たちは、キラキラネームそのものの存在が日本社会において不適切であるか否かを、日本の人への命名権における制限や若者を中心としたキラキラネームに対する世論を基に考えます。そして日本の命名権における新たな規範を提案します。</p>
16:30	<p><b>かばた文化から物語る公共性～人と人、人と自然の共生社会へむけて～</b>  杉本智弘(総政3年)・田中直人・門禎之・有川沙希(総政4年)・松井俊太郎・高柳拓芳・藤井美穂</p> <p>昨今の環境問題や人間相互の問題に悩まされている私達は、しばしば人と人、人と自然の共生について考えなければならないという議論を耳にする。この議論に対し本発表では、高島市針江地区における共生社会を理想のモデルとして提示する。針江地区では、「川端(かばた)」という地域全体で水資源を共有する仕組みが生活の一部として機能している。ここでは、人間生活の自然・社会・文化の各領域が一つのネットワークとして相互に作用している。この共生形態を基に、私達は思想哲学的観点から日本社会に応用可能な社会モデルを導き出す。</p>
17:00	<p><b>意匠権～眞壽田順啓研究室～</b>  津田大介(総政3年)・西野真希・林美玲・澤本知都</p> <p>「意匠権とは？」ということにおいて、意匠権とは一体どのような制度で、どのような目的のために存在しているのか。「法改正後の動向」と題して、諸外国の出願動向に比べて日本の近年の出願動向について、さらに諸外国の現状と比較することで分かる日本の現状を理解し、日本が国際調和していくためにはどうしていくべきかという現状の課題について発表する。</p>
17:30	<p><b>電子書籍の普及と出版業界の関係 (眞壽田ゼミ)</b>  森田裕介(総政3年)・眞壽田ゼミ・伊東拓真・佃宗一郎・徐宇宏</p> <p>若者の活字離れ、インターネットの普及によって本が売れない今の世の中。新しい書籍コンテンツとして電子書籍が登場した。しかし、本よりも売上が少ない電子書籍をなぜ出版社は販売するのか。電子書籍は本が売れない時代を切り開くカギなのか。昨今の書籍をめぐる出版業界の現状を分析し、電子書籍という一つのコンテンツを購入する側と作成する側の視点から見たメリット、デメリット、そしてそこから見えてくる出版業界の問題点とそれに関連する電子書籍の役割について考察し、出版業界の未来を考える。</p>
18:00	<p><b>格安航空券の闇</b>  中野竜太(総政3年)・井垣ゼミ・戸村有希・宮崎裕也・金谷花梨・松井美樹・佐藤夕季・竹村友希・王恩淇・松井賛富・李蒙・小谷瑚子・中尾泉美・長井駿</p> <p>LCC(格安航空会社)や格安航空券といった、一見利用者からは便利にしか見えないサービスに潜むリスクや危険性などに焦点を当てる。それらの結果を踏まえて、今後利用者はどこに目を付ければよいのかなどを検討していく。</p>

## 第1日(11月15日)口頭発表C会場(Ⅱ号館111教室)

11:00	<p><b>Going Green! ～さらばグレー成長、時代はグリーン成長へ～</b>  <i>加志村拓(総政3年; 朴勝俊ゼミ)・廿日出梢・沓脱真</i></p> <p>「21世紀は環境の世紀」と叫ばれて久しい。環境を軽視した“グレー成長”は、小さな地域から地球規模にまで様々な環境問題を引き起こした。将来世代への責任を果たすためにも、私たちは何らかの政策を打ち出さなければならない。その一方で、発展途上国のように今後の経済成長が期待されている国々において、環境政策に重点を置いた脱成長的政策は政治的な合意取り付けが難しい。結局、環境保護と経済成長は永遠に分かり合えないのだろうか？人類が抱えるこのジレンマに、私たちは“グリーン成長”で挑戦する。</p>
11:30	<p><b>公園内花壇を利用したオキナグサ保護への提案～住民参加を中心に～</b>  <i>垣内万季(総政3年; 佐山ゼミ)・宇田学・白石ひとみ・山本理奈・大槻香菜・上林真弓(総政4年)・武本千枝・岡本紋奈</i></p> <p>手取峡谷は、行政の監視が弱く、絶滅危惧種のオキナグサが度々盗掘に晒されてきた。これに対し住民が監視活動に加わる意義は大きい。自生地情報を住民に公開すると、さらなる盗掘を招く恐れがあり、現状、行政と住民の協働はごく小規模に留まっている。我々は、こうした行政・住民間のジレンマを解消すべく、双方の関係者へのインタビューを行い、マイスター制度を核とする解決策の提案を行った。リサーチ・フェアでは、その提案に対する関係者の意見も踏まえ、より実現性を高めたオキナグサ保護に関する住民参加推進策を発表する。</p>
12:00	<p><b>西淀川公害とそこから見えてくる課題～公害問題を克服するためにはどうすればよいのか～</b>  <i>冨本亮太(総政3年; 朴ゼミ)・小林雅人・三浦輝之</i></p> <p>西淀川公害問題を事例として、公害問題を住民側の視点から、どのように解決していけばよいのかを明らかにした。西淀川公害では、住民側が立ち上がり、公害裁判に勝訴した結果、「あおぞら財団」を設立した。そして、全ての人達に対して公害に関する知識を深めるべく、公害教育を普及させた住民たちの活動が、国や行政の姿勢を軟化させ、西淀川市全体で環境再生の街づくりが行われたのである。つまり、国・行政に頼ろうとするだけではなく、被害者側から行動を起こすべきである。行政と国民との間でお互いに意思疎通しあうことによって、公害問題の克服は着実に前進するのだ。</p>
12:30	<p><b>行動力と活力のある未来を目指して～フィンランドの教育に学べ～</b>  <i>志渡澤美歩(京都学園高校1年)・井上普・平田麻衣・南出聖希・星雅登</i></p> <p>日本では、ゆとり教育導入による学力低下、学習意欲の低下など多くの問題を抱えています。一方フィンランドでは、過去に教育制度改革が進められ、暗記に頼る教育ではなく、柔軟に考え、行動できる子ども達を育てています。国が理想的な教育を目指し、実現することによって、子ども達はよりよい教育を受けることが可能になります。国を変えるために教育は大きな力となり、その実現に向けて私たちができることは、現状をとらえ、考え、研究し、発信することです。その輪を広げることによって、行動力と活力のある未来を実現できると考えます。</p>
13:00	<p><b>KSCはローカル化しているのか？</b>  <i>坂本珠里(総政3年; 山田ゼミ)・島田征弥・菅野優衣・古谷美紀・山崎駿一</i></p> <p>近年、大学進学において地元の受験生が増え、地元外の受験生が減るという「地元志向」の高まりが顕著である。東京都内の著名大学でさえも、経済的理由を中心に、受験生の「地元志向」が強まり、関東以外の地方出身学生が集まりにくくなっている。そこで、私たちは、関西学院大学三田キャンパスの総合政策学部、理工学部をまず対象に地元志向に焦点を当て、KSCでも「ローカル化」が進んでいるかをデータから定量的に検証し、またそれによる影響の検討を試みる。</p>
13:30	<p><b>大学生の授業選択の在り方を考える～授業選択支援システムの提案～</b>  <i>若山和樹(総政4年; 伊佐田ゼミ)</i></p> <p>「大学に入学し授業選択に困った経験はありませんか。その原因は何でしょうか。」この研究では、学生が効果的な学習を行うことを目指し、総合政策学部生の授業選択の現状を明らかにして、授業選択の際の困惑の原因、問題点を探る。さらに明らかになった問題点を解決するために、授業選択の際の情報源であるシラバスに対してユーザビリティやwebデザインの視点からアプローチを行い、視覚的な表現を用いた授業選択支援システムを提案する。</p>

15:00	<p><b>成績評価～You大学生だろ！？ 出席しちやいなYou(ヨウ)～</b>  <small>山村綾花(総政3年・窪田ゼミ)・高田慶太・平川桃子</small></p> <p>中学高校と比べ、大学の授業への出席率が減ったと思いませんか？学生の学力低下が叫ばれる昨今、様々なデータから、授業出席率と学力は密接に関係しているといえます。今回、私たちはこの出席率の改善方法を考えました。情報社会と言われる現代において、メディアや情報を応用しスピーディ、低コストかつ、不正の起こりづらい方法を提案します！</p>
15:30	<p><b>成績評価～不正行為する側とされる側の仁義無き戦い～</b>  <small>大上賢汰(総政3年・窪田ゼミ)・赤坂祐子・木原いつくしみ・青山豪</small></p> <p>今日、大多数の教育機関等では成績評価のためにテスト実施やレポート等を用いている。しかし、従来からカンニングやコピペ等といったいわゆる不正行為により正しい成績評価が困難になっている可能性がある。こうした問題を防ぐにあたって、どういった対策が講じられているのだろうか。不正行為を行う側、対策する側の両面から調査を進め、より効果的な方法論などを提示する。</p>
16:00	<p><b>荷物でとるな！パソコン座席～大学のPCはみんなのもの～</b>  <small>巽加奈恵(総政3年・窪田ゼミ)・大村紗貴・宮崎恵・柴田龍平(総政4年)</small></p> <p>あなたはこんな経験をしたことがありますか？ 大学での空き時間にパソコンを使おうと図書メディア館へ行くと、ほとんど使えるパソコンが空いていない。やっと見つけたかと思うと、そこには誰かの荷物が…。誰かの荷物のせいでパソコン使えず、レポートを書きたくても書けない…。締切りギリギリなのに…。そこで、私たちは荷物によるパソコンの場所取り問題を画像解析技術などによってアプローチし、解決策を提案します。</p>
16:30	<p><b>データベースで何が出来る？～「楽譜管理データベース」導入事例から～</b>  <small>藤田勘介(総政4年・伊佐田ゼミ)</small></p> <p>銀行ATM、図書館の検索システム、ネットショッピング。私たちが日常的に利用しているこれらのシステムには、必ずと言って良いほどデータベースが利用されています。とはいえ、実際にデータベースと聞くと「なんだかよくわからない」と思う人が多いのでは。この発表では、約2500曲もの楽譜を手作業で管理していた関西学院大学応援団総部吹奏楽部に「楽譜管理データベース」を導入する事例を紹介し、データベースを導入することでどのような効果が得られたのかについて検証しながら、データベースの可能性について説明します。</p>
17:00	<p><b>電子楽譜の可能性～楽譜検索システム～</b>  <small>根来鈴(総政4年・伊佐田ゼミ)</small></p> <p>電子書籍という言葉を目にするようになって数年経ちました。一方、“電子楽譜”という言葉には聞き覚えがある人は少ないのではないのでしょうか。電子楽譜とは一体なんなのか、紙の楽譜と比べてのメリット・デメリットはどのようなものなのか。今回、実際に紙の楽譜を電子データ化し楽譜検索システムを作りました。楽譜検索システムを通して、今まで紙の楽譜ではできなかったことを実現する電子楽譜の可能性について考えていきます。</p>
17:30	<p><b>外国人旅行者に充実した WIFIサービスを</b>  <small>李沙耶(総政3年)・大出有佳子・奥村真理子・行久隆太郎</small></p> <p>外国人旅行者の不満度1位である日本の無料公衆無線LANサービス。この問題を解決することが私達のプロジェクトの目的である。どうすれば外国人旅行者に充実したwifiサービスを提供することが出来るのかを根本に、itaiwanという台湾の優れたWifiサービスに目を付け、日本に違った形で導入し、この問題を解決しようと取り組んできた。最終目標はitaiwanを日本のコンビニに導入すること！に定まり、発表ではそこまでに至った経緯、なぜitaiwanなのか、なぜコンビニなのか、そこから生まれた新たな目標と課題を紹介する。</p>
18:00	<p><b>TPPコメ自由化による日本経済への影響～産業連関分析の実践～</b>  <small>佐藤功一(総政4年・中野ゼミ)・勝井美世・岩本葉・細川裕貴・佐藤和成(総政2年)</small></p> <p>環太平洋戦略的経済連携協定(以下、TPPと記す)によるコメ自由化によって、日本経済全体にどのような影響を与えるのだろうか。日本の政府の試算によれば、コメの輸入が自由化されることにより、国内生産額が約1兆100億円減少すると報告されている。しかし、日本政府の試算だからといって、それを鵜呑みにしても良いのだろうか。実際に自分たちでその試算が正しいのかどうかを分析する必要があるだろう。そこで、日本政府の試算でも使われた産業連関分析を用いて、モデルを作成し、コメ自由化による日本経済へ与える影響を追究していく。</p>

## 第1日(11月15日)口頭発表D会場(Ⅱ号館201教室)

11:00	<p><b>第2のオサマ・ビン・ラディンは現れるのか?</b>  <i>林里紗子(総政3年;井上ゼミ)・植田智美・太田玲菜・小林彩真・若林理絵・李娟知</i></p> <p>2001年9月11日。アメリカの世界貿易センタービルに航空機が突っ込み3025人の命が失われるという史上最大規模のテロ事件が起こり、全世界に衝撃を与えた。容疑者のアル・カイダはなぜこのような大規模なテロを実行したのか、その背景には何があったのか、この大規模なテロを防ぐことはできなかったのか。9.11から12年経つ今日、世界中では未だにテロが絶えることはない。ウサマ・ビン・ラディンの様な指導者は今後現れることはあるのか、9.11の様な多くの命が犠牲になってしまうテロが今後起こりうる可能性はあるのかを考える。</p>
11:30	<p><b>姿の見えない殺人機～無人機にモノ申す～</b>  <i>小谷さゆり(総政3年;小池ゼミ)・濱田紗月・忠重晃貴・戸口希歩・小川真里奈</i></p> <p>現在、世界各国では「無人軍用機」の開発競争が活発化している。アメリカを筆頭に、中国・ロシアといった国々が、開発に力を注いでいる。私たちは、国際社会で運用される「無人軍用機」のメリット・デメリットに焦点を当て、独自の分析を行う。また、未だ「無人軍用機」運用に関する明確な“国際的規制”が定められていない現状に、警鐘を鳴らすと共に、私たちが考える「無人軍用機運用に関する国際基準条約」を生み出し、提案する。</p>
12:00	<p><b>日本のミャンマーに対する外交政策</b>  <i>高木義万(総政3年)・丸山公一郎・飯田浩二・桂翔太・岡野壮宏・佐野寛治・本多佑里恵・井上紗希・岩本久美・桂翔太・濱名隆介・菜帆</i></p> <p>2011年秋、民主化への面舵を大きく切ったミャンマーに対する世界各国からの注目は、今後さらに強まっていくだろう。日本は旧ビルマ連邦の時代から現在に至るまで、ミャンマーとの国交を続けてきた。2013年5月には、安倍総理自らがミャンマーを訪問し、テインセイン大統領との首脳会談を行った。しかしそれら一連の政策は、どのようにミャンマーの発展を促したのだろうか。また先進各国や国連、ASEANなどの、国際機関からの対ミャンマー政策、それらと日本の政策と比較、研究がしたい。現ミャンマーに至るまでの一連の流れを日本からの観点で分析し、様々な問題点や変化に注目しながら、両国間の外交政策の可能性について考察する。</p>
12:30	<p><b>あなたの隣に難民奨学生～関学の難民受け入れ制度って知ってる?～</b>  <i>中飯隆太(総政4年;小西ゼミ)・今井康貴</i></p> <p>2006年に関西学院大学が日本の大学で初めて途上国の難民を正規学生として受け入れる制度を始めた。現段階では難民受け入れの人数は年間2、3人に留まっており、人数としてまだまだ少ないと感じる。まだ始まったばかりの制度で、改善点は多くあるのではないか。また、世界市民である私たちにとってこの制度の充実が重要なものであり、受け入れ学生にとっても日本で学び得ることは多いのではないだろうか。今後さらに普遍的な制度にする為に、具体的な提案ができないか考察する。</p>
13:00	<p><b>中国の出稼ぎ労働から生じる留守児童問題～はぐくみプロジェクト～</b>  <i>林利憲(総政2年)・岡田沙也(総政3年)・濱田紗月・三浦彩花・小山楓・赤崎里奈・森奈津美(総政2年)・三好瑞葉・岸萌美</i></p> <p>2013年9月28日にGSR学生アイデアコンテストに出場し、ユニーク賞を受賞した作品です。          中国で大きな問題となっている「留守児童問題」。留守児童とは、両親が出稼ぎに行くことにより、孤独でさみしく生きていかなければならない子供たちのことを指します。彼らは孤独に苦しみ、さらには受ける教育も手薄になってしまいます。そのため、彼らも出稼ぎ労働者にならざるを得ない状況におかれ、その子どもたちもまた留守児童となってしまうサイクルが生まれるのです。留守児童問題が起こる原因は、両親が出稼ぎに行かなければならない環境があることと教育の不定着。そんな留守児童問題を解決すべく、私たちは企業2社のリソースと中国現地のNPO団体と協働で行う「はぐくみプロジェクト」を提案します。</p>
13:30	<p><b>先進国と発展途上国の医療格差をなくすために</b>  <i>岡田侑希(京都学園高校1年)・川端太一郎・佐々木有縁・橋由倫映・ダウニー・ケーシー</i></p> <p>先進国と発展途上国には大きな医療格差があります。そこで格差が起こる原因とその解決方法について考察しました。先進国は新薬を自国で研究・開発していますが、発展途上国は輸入に頼っています。医療従事者の知識・技術、医療設備の開発、医療エンジニアの整備技術も先進国に比べ、途上国では遅れています。医療における途上国の自立を実現するために、医大・専門学校を作り途上国の医師・看護師を養成し、医療スタッフの技術水準を向上させ、施設機器の充実を進める必要があります。最後に私達一人ひとりが医療格差是正のために何ができるか、考察・提案します。</p>

15:00	<p><b>国際協力への道～ネパールでの教育支援～</b>  <small>岡本風花(総政3年)・三枝香代・濱田秀華・住澤郁巳</small></p> <p>国際協力と聞いてどのようなイメージを持っていますか。私たちは夏休みにフィールド調査でネパールへ行きました。ネパールは、温かい人々と笑顔で溢れていましたが、その裏側には多くの問題が未だ解決されず残っています。貧困、カースト制度、教育問題、ジェンダー問題 etc…これらの問題を改善するためにJICAやNPOグループが現地で活動しています。私たちはネパールでのフィールド調査でJICAの教育プロジェクトグループといくつかの小学校を訪問しました。私たちはネパールでの調査をもとに、教育分野での国際協力に必要なものは何かを考え、提案します。</p>
15:30	<p><b>TPPにおける難攻交渉分野～特許制度のメリット及びデメリット～</b>  <small>山橋勇輝(総政3年; 眞壽田ゼミ)・佐野雄亮・森井一樹・御幸洋光</small></p> <p>日本が現代まで多種多様の技術を有することができ、世界に最先端の製品を提供することができたのは、特許制度のおかげであるといっても過言ではないが、他国では特許制度の強化について反対している国が多い。なぜ特許制度についてこのような異なる見方が生じているのかについて、知的財産の必要性に着目しながら検討したので、ここで発表していきたい。</p>
16:00	<p><b>中国のチャーム・オフensive戦略に迫る～中国のソフトパワー外交～</b>  <small>小林千夏(総政3年; 井上ゼミ)・川島梨子・榎本智香・岡本沙耶・吉田昇司</small></p> <p>日本人の「中国に対する好感度」はわずか5%と世界で最も低いことが調査により明らかになっている。一方で、「中国は世界に良い影響を与えている」と評価をする国は決して少なくない。なぜこのような温度差が生じてしまうのか？中国が日本以外の国で一定の支持を得られるのは、ソフトパワー外交が成功しているからか、あるいは他の要因があるのかを分析していく。</p>
16:30	<p><b>日本大進撃論</b>  <small>綱島康之(総政3年; 長峯ゼミ)・井上淳起・村田加奈・山下舞子・西村宣也</small></p> <p>長期に渡って続く日本の経済不況から一刻も早く脱し、日本を再生させる必要がある。そのためには日本のデフレを正しく理解し、その常備薬である金融政策を正しく実行することが急務である。日本経済再生を「デフレからの脱却」と定義した。確かに日本経済は、産業構造調整、生産性の低迷、財政再建、社会保障、年金改革といった様々な問題を抱えてはいるが、そもそもデフレのもとでは増収は増えず、それら問題の多くは根底にデフレがある。つまり日本の経済問題を解決するには、まずはデフレ不況からの脱却を成し遂げなければならない。</p>
17:00	<p><b>リア充・非リア充における購買行動の違いを利用したマーケティング戦略の立案</b>  <small>片芝亮友(総政3年)・寺田彩香・太田実那・藤田実紗・松林潤一</small></p> <p>近年、若者の間では「リア充・非リア充」という言葉が流行し、頻繁に飛び交う言葉となっている。しかしながら、いまだ辞書にも載っておらず、リア充・非リア充の生活や習慣などにおける違いなど、明確な分類ができていない。本研究では、大学生を対象としたアンケートからリア充・非リア充の分類を行い、購買行動との関連性を分析した後に、マーケティング戦略を提案していく。</p>
17:30	<p><b>SAKE革命～日本の若者よ酒を飲め～</b>  <small>門脇哲平(総政3年; 古川ゼミ)・宗和大・菅原奈津美・櫻井愛巳・東海三枝子</small></p> <p>日本が世界に誇る伝統的な飲み物“日本酒”。だが、近年日本の若者の日本酒の消費量が減少傾向にある。若者が抱く日本酒の古臭く、手を出しにくいというイメージを払拭し、新しいイメージを作り上げる。大学生を対象にアンケート調査を実施し、今日の日本酒に対するイメージ、飲む頻度などを統計的に分析する。そうして導き出された数値を基にどのようなデザイン、飲み方、価格が受け入れられるのか、手を出しやすいのかなどを考察し、現代の若者達にとって日本酒がより身近になるようなマーケティング戦略提案する。</p>
18:00	<p><b>日本のユニクロ、世界一位への実現構想</b>  <small>濱崎千怜(総政3年; 中野ゼミ)・佐々木藍・影林宏一・入江祐国・山口正洋・植木和貴</small></p> <p>あなたのクローゼットにユニクロの服はありますか？日本のファストファッションの代表格に位置するユニクロ。今、世界中に店舗を持つユニクロは世界におけるファストファッション業界第5位です。強敵ライバルブランドを抑え、ファストファッション1位になる為に、日本でもお馴染みとなったライバルブランド、H&amp;MやZARA、GAPなどの戦略と比較しつつ検証していきます。日本らしさを持ち続け、ファッション界におけるモノづくりの極みで世界相手に戦う術とは…！</p>

## 第1日(11月15日)口頭発表E会場(Ⅱ号館204教室)

11:00	<p><b>上海における中小企業への振興政策～日本の教訓から～</b></p> <p style="text-align: right;"><i>孫琰(総政M2)</i></p> <p>2008年のリーマンショックの後、中国政府は環境問題、隣国との国交問題、国内金融体制の不備など一連の問題に直面している。一方、市場経済の経験が不足していて、中国政府はなかなか有力な政策が打ち出せない。このような状況で、新しい世界経済情勢に適応するために、資金力、技術向上などの面で相対的に弱い中小製造企業に対する支援は急務であると考えている。日本の中小企業の発展の歴史と現状を勉強して日本の現行政策と将来の方向性を調査する上に中国中小企業へ転位可能な政策を提唱する。</p>
11:30	<p><b>生活保護制度の各論整理と研究課題</b></p> <p style="text-align: right;"><i>八並剛志(総政M1)</i></p> <p>生活保護制度に関する論点をひとつずつ整理していく。不正受給、捕捉率の低さ、適正な捕捉率、生活保護供給システム。それらを確認した上で、私の研究内容を発表する。国は通達や要綱などで各自治体に国として地方が達成してもらいたい指針を出す。そこで、私はある特定の地方自治体を取り上げて、国が想定する生活保護制度をどの程度その自治体が達成できているかを通達や要綱と照らし合わせながら研究する。</p>
12:00	<p><b>学生ボランティアの参加動機に関する研究</b></p> <p style="text-align: right;"><i>狩野仁哉(総政M2)</i></p> <p>本研究では学生のボランティアへの参加動機を分析することで若者のボランティア活動への参加を高めるための方策を考えることを目的としている。これまでの研究で利己的動機や利他的動機、社会的つながりなどがボランティア活動開始動機に影響していることがわかっている。しかし、ボランティア開始動機と過去の体験との関連性を調査した研究は見当たらなかった。そこで、ボランティア参加動機と過去の体験との関連を調査することで、過去にどのような体験をした学生がボランティア活動に参加しやすいのかという傾向を明らかにし、学生ボランティアを募集する際や学生の成長の場として活用するための参考になる提案を行う。</p>
12:30	<p><b>町づくり交流活動で町並みが維持できるか～今井町を事例として～</b></p> <p style="text-align: right;"><i>魏小娥(総政D3)</i></p> <p>本研究は1993年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された今井町を取り上げ、その町並み保存をきっかけとしたまちづくり活動とそれが産む空間との関係を分析した上で、その空間利用の実態、そのまちづくり活動は他地域にはどのような影響を与えられたか、他地域の町づくり関係者が今井町をどのように認識しているか、などを明らかにする。</p>
13:00	<p><b>中心市街地と大型商業施設の共生～兵庫県丹波市柏原地域をモデルとして～</b></p> <p style="text-align: right;"><i>松田卓也(総政M2)</i></p> <p>現在、地方都市では人口減少や高齢化が進行し縮小を迎えている。今回、研究対象とした柏原地域もその例外ではない。そして、このような都市においてコンパクトシティという都市モデルが持続可能な都市を形成するための一つの要因として考えられている。コンパクトシティとは都心部分に都市機能を集約させる都市モデルとされている。しかし、現状は都心である中心市街地は衰退し、ロードサイドに商業施設などが集約している状態である。そこで、本研究では中心市街地に大型商業施設を配置し、縮小が進行した地方都市における持続可能な都市モデルを提案する。</p>
13:30	<p><b>大阪オフィスエリアにおけるコンバージョン有効性研究について</b></p> <p style="text-align: right;"><i>垣尾俊彰(総政M2)</i></p> <p>大阪オフィスビルエリアの空洞化・空室化において、今後日本はどのような施策で都市経済を潤滑化させていくことが出来るだろうか。人口減少社会日本において未だに新築ありきの住宅政策が繰り返されている。つまり古い物件には価値がないという前提で住宅政策、金融政策が行われている。日本は新しいものを創る時代から古いものをどう利用していくかという時代に入っている。そこでストック(本研究では既存建物をいう)を利用して住宅へのコンバージョン(用途転換)を提案し過剰開発に符を表す。大阪でこれがどの程度有効性があるか検証する研究と位置づけている。</p>

15:00	<p><b>武庫川流域の土地利用変遷に都市計画が及ぼす影響とその要因～宝塚市、西宮市、伊丹市にまたがる中流域を対象として～</b>  <i>上野紗恵(総政M1)</i></p> <p>本研究の目的は、武庫川中流域(宝塚市、伊丹市、西宮市)における河川周辺の土地利用の変遷とその要因を、“流域”の視点を取り入れて明らかにすることである。現在、この地域の武庫川周辺は、地域によって土地利用が大きく異なっている。しかし、それが、いつ頃からどのような要因で発生したかは解明されていない。これらを研究することは、残された自然環境の保全やかわまちづくりの推進、流域の治水、今後の河川周辺の土地利用を考えていくうえで有意義であると考えられる。本発表では、河川に関する先行研究を中心に述べる。</p>
15:30	<p><b>三田市の地域における防災への取り組み方～異なる3地域の自主防災リーダーインタビュー結果より～</b>  <i>孫晶晶(総政M1)</i></p> <p>三田市は、三田駅周辺の旧市街地・新しく開発したニュータウン・昔からの伝統的な農村部という異なる地域特性が混在している。それぞれの地理が異なることにより、地域別のライフスタイル、さらに三つの地域での災害への備え方も異なると推測される。このような特性を持つ三田市においてより有効な防災施策を考えるため、先行調査として三田市の多様性を確かめることにし、地域別で防災に関心を持つ自治会の担当者に対し、インタビューを依頼した。今回の発表では、インタビューの結果を整理し、各地域の状況を比較して考察を行う。</p>
16:00	<p><b>緊急時避難動線からみた特別養護老人ホームの建築計画について</b>  <i>井上統一郎(総政M2)</i></p> <p>この先深刻化するとされている高齢社会と、日本にいる上で切り離せない災害という、2つのテーマを建築空間という面から考察していく。具体的な方法としては、先行研究から、避難や高齢者に役立つ要素を抽出し、それを基に既存の特別養護老人ホームのリフォームプランを作成する。そして、リフォーム前後を3つの分析方法により比較することにより、リフォームによる避難の有効性や向上性を検証していく。</p>
16:30	<p><b>Recent Trend of Canada's Environmental Assessment System～What Japan can learn from Canada～</b>  <i>大高茜(総政M2)</i></p> <p>In Canada, the current ruling Conservative party led by Prime Minister Stephen Harper has replaced the original Canadian Environmental Assessment Act (CEAA 1992) by a new act (CEAA 2012). This study evaluates the new CEAA, by comparing it to Japan's Environmental assessment system.</p>
17:00	<p><b>社会的リスクの法的責任～原発事故を事例として～</b>  <i>竹内宏規(総政M2)</i></p> <p>福島原発事故に関わる事業者と国の「想定外」発言は、責任回避として物議を醸したが、問題の所在は主観的に想定していたか否かではなく客観的に予見可能性があったといえるのかどうかという点にある。予見可能であったと判断されればその過失責任は問われなければならない。ところが原子力を巡る現行法規ではその過失責任範囲さえ不明確であるのが現状である。本発表では「想定外」をリスクと非知の概念から分析し、原発事故を典型とする社会的リスクの責任範囲を論じ、原発事故を巡る現行法規の吟味を通じて、予防原則を通底とする原発事故に関わる法政策を考える。</p>
17:30	<p><b>A virtual mirror for the study of historical fashion</b>  <i>曹静(総政M2)</i></p> <p>The purpose of this work is twofold: 1) to create and test real-time computer graphics tools useful to visualize clothing, hair styles and make up in the form of a virtual mirror, and 2) evaluate the resulting tools in the domain of Qing Dynasty women's fashion. It is anticipated that the main contribution of the work is to create a viable platform to help history researchers, and perhaps the general public, to understand the intricacies of the Qing Dynasty women's fashion by trying it on.</p>
18:00	<p><b>スマートフォンを使って全国的な学術調査を行う方法</b>  <i>米田卓史(総政M2)</i></p> <p>全国的な学術調査は、少数の人が全国を移動して紙をベースとしたアンケートなどで地道に調査が行われていた。現在はパソコン並の性能を持ったスマートフォンを多くの人々が持ち歩いており、日本全国どこからでも通信が可能である。予め調査の形式や必要事項のテンプレートを作り、スマートフォンからアクセスできるようにしておき、スマートフォンとネット環境があれば誰にでも調査に協力可能なシステムをMediaWiki及びGoogleMapを基に作る。</p>

ポスター発表(ディスカッション・タイムは11月15日[金]14:00～15:00)

P1	<p><b>オリンピック開催地はどのようにして選ばれるか</b>  田中琴奈(総政3年)・長谷川ゼミ・芝野恵里菜・大野晶平・後藤祐子・佐藤愛華・布江田悠仁・山本加奈子・田中美智瑠・小菅恵里花・石原若奈</p> <p>この報告では、オリンピックの開催地がどのように選ばれるのかを考察する。まず、挙げられるのは「施設面」「交通面」「医療面」「治安面」などである。たとえば「施設面」に関してオリンピック競技を実施するためには、多目的の実施が可能であり、競技会場施設が充実している必要がある。また、競技選手や大勢の観戦者が一定期間滞在する事の出来る宿泊施設も必要になる。国家、社会が安定しており、テロ、暴動、凶悪犯罪などが頻発せず治安が良いことも必要だろう。</p>
P2	<p><b>Webサイトにおける色彩とデザインの重要性～ユーザーの好む色とは～</b>  古堅みのり(総政4年)</p> <p>Webサイトが欠かせないマーケティングツールとなった現代社会において、デザインやユーザビリティを重視したサイトづくりはWebマーケティングにおいて重要なポイントとなっている。本研究では、マーケティングに有効なWebサイトとはどのようなものかを、特に色彩・デザインの観点からユーザビリティも踏まえて考えるものである。実際にWebサイトをいくつかの仮説のもとに再構築し、ユーザーテストやアクセス解析を用いて効果測定検証を行う。ユーザーテストを詳細に行うことで、形式的ではなく「人」の見えるWebサイトづくりとはなにかについても考えたい。</p>
P3	<p><b>韓国進出に向けた中小企業の経営戦略</b>  五太代祐里(総政3年)・川尻剛士・坂本圭・村上雄大・樋森大河・錦織真美・黒木瑠華・金正練・朱華楨・鄭飛龍・張秀迪・加茂文華・鈴木豪・有田志穂・岡部咲彦・青山元洋・岩切雅司</p> <p>私たち安ゼミは、経営学を専攻としており、国内だけでなく国際的視点から企業発展に繋がる政策を日々研究しています。7月より約3か月間、Mラボという神戸新聞社と兵庫県中小企業団体中央会が主体で実施している大学生と地域企業がマッチングを目指す企画に参加し、ゴルフウェアの某中小アパレル企業と共に経営戦略を練ってきました。その企業がどのようにブランド力を高め、また韓国に進出する際、より再現性のある新しい発想を提案することに焦点を置き、安ゼミ独自の経営戦略を生み出しました。この経営戦略について発表します。</p>
P4	<p><b>Islamic Finance and International Financial System～Issues and Policies～</b>  Rayan Alamoudi (総政M1)</p> <p>Islamic finance became an influential factor in the international capital markets. Is the international financial system ready to adopt Islamic financial tools in order to survive from the current financial crisis? Is the Islamic financial system sufficiently flexible to suit the requirements of the twenty-first century? Through descriptive and critical approach, the researcher will give an overview about Islamic finance and modern financial system. And will try to find out the implementation challenges and the best policies to meet these challenges.</p>
P5	<p><b>その就職先、間違ってますか?!～ワークライフバランスの取り組みから見る企業の実態～</b>  田邊由佳(総政4年)・李ゼミ</p> <p>企業のワークライフバランスの取り組みについて、主成分分析に基づき評価を行った。その結果、ワークライフバランスには5つの領域(家庭と仕事の両立・女性の就業支援・リフレッシュ・介護育児支援・労働時間削減)が抽出され、それに基づき、各企業のワークライフバランスの取り組みについてランキングを作成した。ランキングは、保険・証券関連企業は積極的にWLBに取り組んでいる一方、メーカーは乏しいと評価される結果となった。発表では、ランキングとともに、企業ごとのワークライフバランス施策の強み、弱みについて議論する。</p>
P6	<p><b>聞き書き～高齢者の人生に貢献できること・得ることは何か～</b>  猪崎真理子(総政1年)・長橋千秋(伊丹市立伊丹高校3年)</p> <p>「今が一番幸せ」「今が一番楽しい」そう語るのは福祉施設を利用する高齢者たちだ。地域活性化活動に取り組む伊丹市立伊丹高校では中学生による高齢者への聞き書きを企画した。それによって語り手(高齢者)の人生を1枚の紙に可視化した。戦時を生き抜き、人生において様々なノウハウを身につけてきたはずの語り手たちにとって、施設で暮らす今が本当に一番の幸せ・楽しい時であるのだろうか。私たち若者世代が高齢世代の人生に貢献できること、そしてそこから得られることは何か、考察・提案していく。</p>
P7	<p><b>食から見るタイとカンボジア</b>  大木千種(総政3年)・仲村彩恵</p> <p>最近、観光客が増加しているタイとカンボジア。あなたはタイやカンボジアに行ったことはありますか? タイ料理、カンボジア料理を食べたことはありますか? 現在、日本国内にはタイ料理店は約2000店舗ありますが、カンボジア料理店はたったの5店舗しかありません。この2つの国の違いとは何か、また食を通して両国が認知度を上げるために、今後タイ料理・カンボジア料理がどのように進化を遂げていくのか、広まっていくのかを考察していく。</p>
P8	<p><b>持続可能な観光～西表島エコツーリズムの事例～</b>  前田真佑(総政3年)・今井ゼミ・横山嵩浩・矢田郁恵・土田航大・北原真央</p> <p>本発表は持続可能な観光であるエコツーリズムについて述べるものである。エコツーリズムの一般的な定義および内容について考察し、エコツーリズムの導入された経緯を調べ、それに対する取り組みを検証する。これらの情報をもとに、実際にフィールドワークを行った西表島におけるエコツーリズムの事例について述べていく。また、西表島での現地調査から浮き出たエコツーリズムに対する課題があり、これらの課題の中には、エコツーリズムに対する制度の不足が原因のものもあった。これらの課題について検証し、解決策を模索していく。</p>

P9	<p><b>日本はイタリアになれるか～都市ver.～</b>  十川貴裕(総政3年;加藤ゼミ)・藤田凌矢・小林孝宏・藤澤桂一・黒住みのり・山本美怜・菅田紘</p> <p>日本とイタリアの街(都市)におけるの比較。まず、イタリアで「水の都」と呼ばれるヴェネチアと日本の大阪。どちらも大きな川沿いの都市の利用が特徴的。次にイタリアの首都ローマと日本の首都東京。ヴェネチアが経済の中心であるのに対し、ローマは政治の中心である。最後に、フィレンツェと日本の「伝統のまち」京都。まちのシンボルである宗教関連施設に到着するまでの道のりは独特の雰囲気を出している。それぞれの似ている都市を比較することで、日本の都市がこれからどのように発展していけば、より良い都市になれるのかを紹介する。</p>
P10	<p><b>地方都市を救え！～記憶で紡ぐコミュニティ～</b>  大森正江(総政3年;角野ゼミ)・中野綾子・山田早織・喜田峻弥</p> <p>近年、都心部への激しい人口流出により、地方の人口減少、少子高齢化が進み、全国の地方都市では地域力の衰退が問題となっている。それに対して、現在多くの地方都市がまちの特色を守るため、まちの活性化を目的として活動している。我々も、兵庫県丹波市にある柏原という中心市街地活性化区域に入り、まちづくりを行っている。地域力を取り戻すために我々は“昔のまちを再現する”ことを提案する。この地域は、昔は多くの人で賑わう活力があるまちであった。その“昔のまち”を再現することで、人々の記憶を呼び起こし、地域コミュニティの再構築を狙う。また、これが成功すれば大きな観光資源となり、地方都市活性化の一事例として全国を中心市街地活性化事業に貢献できることを願う。</p>
P11	<p><b>地域×道の駅=?～新たな時代の地域復興のカたち～</b>  土居知広(総政3年;客野ゼミ)・寺本有佑・松岡佳恵・高岡朋子(総政4年)</p> <p>「道の駅」。この言葉を聞いて連想されるのは、旅路の途中でふらりと立ち寄る休憩施設、その地にある特産物を購入できる施設の様々、地域の“色”を感じることが出来る施設である。好印象を受ける反面、日常車を使わない地域においてはあまり馴染みがなく、地域の人々もあまり立ち寄らないという印象も受けるのが事実である。だが近年、「道の駅」が注目され、私たちの地域社会に貢献する機能を担う可能性を秘めている。そこで私たちはこの期待されつつある「道の駅」の現状と課題を分析し、そのうえで新たな「道の駅」を提案したいと考える。</p>
P12	<p><b>三田市における給油所過疎地に関する研究</b>  平井翔也(総政3年;山田ゼミ)・村山圭一・竹田幸男・眞嶋志帆・山路杏由子</p> <p>エコカーなどの燃費の向上や、ガソリン需要の減少や2013年2月1日の消防法の改正により、全国の給油所数が減少している。給油所閉鎖により、利用者の給油所までのアクセスが悪くなり、自動車を主な交通手段としている地域では、ガソリンは生活必需品であるため日常生活で不便を強いられる。本研究では、給油所の過疎・過密地域における適正施設数を算出し、閉鎖の影響が高く、かつ閉鎖時の影響の大きい給油所が閉鎖した場合の影響を検討する。</p>
P13	<p><b>都市イメージと広告</b>  岸田亜咲実(総政3年;山根ゼミ)・笹井志生</p> <p>地下・商店街・ビルの側面など、都市のなかには様々な広告が溢れている。特に、にぎわいのある都市には広告物が集まり、それが都市を印象づけるかのように飾られている。例えば、大阪の道頓堀を飾るグリコの看板のように、ある広告物がその都市のイメージを形成するものがある。本発表では、都市のイメージを決定付けるものの一つであろう広告物を取り上げる。大阪の都市を対象とした、広告物が人々へ与える印象を問うアンケート調査をもとに、多様な屋外広告物と各都市の関係性を考察する。</p>
P14	<p><b>ウミガメに人が集まる町～どこまでエコツーリズムをとり入れるべきか～</b>  中崎裕子(総政3年)</p> <p>大阪から車で2時間ほどのところにアカウミガメ産卵数、本州第一位の場所がある。和歌山県みなべ町は梅干しの生産日本一であるが、絶滅危惧種に指定されているアカウミガメの産卵地としても有名である。そのため産卵時期には多くの観光客が見学に訪れる。観光客の8割は和歌山県外からで、遠くは北海道からも訪れている。しかし、この浜は観光地化されていない。看板すらもない小さな浜に口コミで人が集まっているのである。この研究では、みなべ町千里浜において、どのようにエコツーリズムをとり入れ、絶滅危惧種のアカウミガメの保全に活かすべきかを考察する。</p>
P15	<p><b>よさこいを通して地域活性化～よさこい祭りの効果～</b>  吉田翔平(総政4年)</p> <p>私が滞在している三田市は、かつては人口増加率10年連続日本一と言われていたが、現在はそのようなことも言われなくなり、三田駅の商店街でもシャッターが閉まっている店も多く見られるようになった。私はそれらを見て個人的に“元気がない”ように思われた。そこで私はこの三田市を少しでも盛り上げられないか、活性化に携われないかと考えた。私は在学中によさこいサークルに所属していたこともあり、“よさこい”というツールを使って盛り上げることはできないかと思い、このテーマを選んだ。</p>
P16	<p><b>“ささやま”なコミュニティー</b>  原田悠里(総政4年;齊藤ゼミ)</p> <p>地域資源を有効に活用していくにあたり、地域の博物館が地域の拠り所となる。また、まちづくり・地域活性化が地域の博物館から発展していく可能性を明らかにする。今回、篠山市を対象に、博物館を含めた既存の歴史文化施設の有益性を考察し、特に、ささやまチルドレンズ・ミュージアムの事業・活動および、篠山市内のまちづくり・地域活性化活動の研究を通して、篠山の各エリアでの地域活動・プロジェクトと博物館施設が有機的に結びついた新たな“ささやま”なコミュニティーを提案する。</p>

P17	<p><b>カラオケ店の売上増を目的とした他店との優位性を図れる戦略の考案、調査</b>  矢野遼太郎(総政4年;伊佐田ゼミ)</p> <p>現在の三田市において、カラオケ店舗は5つあり、4つのカラオケ店が三田駅周辺に点在しているという状態にある。2013年2月からその4つのカラオケ店の1つであるカラオケ店「アメニティー」が閉店し、新たにカラオケの大手全国チェーン店である「まねきねこ」がオープンすることとなった。去年2012年にもほかのカラオケ店が新装オープンし、売上が下降気味だった「おさるの村」にとってこれ以上客足がおさまらないようにはどんなマーケティングをすればよいかと思い、情宣計画をしようと考えた。</p>
P18	<p><b>我が国の観光振興政策における美術館の位置づけに関する研究</b>  西口真也(総政M2)</p> <p>我が国の観光振興政策に果たす美術館用途の役割を明確にすることを目的とする。  以下に研究のプロセスを示す。  1)文献調査並びに現地調査を行う。  2)各種調査から得られた結果を基に、それぞれ美術館の特徴をデータベース化する。  3)データベースに基づき、それぞれの美術館が観光振興政策に貢献する指標を示す。なお、分析方法は多変量解析を行う。</p>
P19	<p><b>田舎に魅せられて～イタリア編～</b>  大久保舞(総政3年;加藤ゼミ)・上田彩乃・坂野愛子・小水陽介</p> <p>私たちは夏季休暇を利用し、フィールドワークでイタリアを訪問しました。フィールドワークでは、イタリアの街・建物・都市計画について主に学習しました。それと同時に、どのように都市が成長したのか、どのような都市計画がなされて、どのように街が保存されてきたのかと多くの疑問を持ち、さらには日本の街づくりとはどう違うのかと疑問に感じました。今回の発表では、その疑問を解決するために、イタリアと日本の類似した町を取り上げ、それぞれどのような取り組みがなされてきたのかを比較し、今後の取り組むべき事について考察する。</p>
P20	<p><b>南海・東南海地震に向けて～TMD耐震技術の展開～</b>  太田知佐(総政3年;馬場ゼミ)・松島小夏・畦田舞・小田切一生・三國涼・山脇友貴・京極理沙・牧浦里奈・福西幸子・金ジナ・李娜</p> <p>近い将来に発生することが確実視されている南海・東南海地震は、震源からごく近い太平洋沿岸地域に限定すると短周期地震になるが、震源距離の長い京阪神では長周期地震として捉えることが可能である。そこで本研究では、いわゆる長周期地震に備える耐震技術のなかからTMDを取り上げ、どのような構造タイプあるいは形状タイプの建物に用いたときに効果的かを調べる。この検証作業を具体化するために、タイプ別の模型建物および簡易なTMD機器を作製し、長周期地震の揺れに対する抑制効果について明らかにするとともに、一般的な住宅建物に応用したときの課題と展望についても検討する。</p>
P21	<p><b>建築を想う～イタリアと日本～</b>  福西恵理(総政3年;山根ゼミ)・高野泰輔</p> <p>古くから様々な建築様式に変化し、繁栄を成すイタリア建築。その中でも、イタリアの各都市様々な場所に存在する、ドウオーモに焦点を当てる。街の象徴であるドウオーモは、各都市によって形式や設計、外観が異なり、それぞれの街の建築様式を見事に表している。そんなドウオーモを、実際に現地で撮影した写真と共に紹介し、イタリア建築様式の歴史を振り返る。</p>
P22	<p><b>岡山県北エコネットワーク～岡山県のまちづくりの現状とそれらを改善する政策提案及び設計～</b>  井上統一郎(総政M2)</p> <p>現地調査や文献資料から、現在岡山県が抱える問題点と将来抱えるであろう問題を提起する。そして、そのような問題を改善するような政策を提言する。この政策により、少子高齢化が進み、弱体化する地方都市に希望や新たな可能性を見出すことを目的とする。また、その政策に付随して現れる「シニアタウン」をアルゴリズムと呼ばれるコンピュータープログラミングを用いた新たな設計手法によって、実際に設計する。その結果、岡山県を題材とした、新たな都市計画、建築設計の考え方を模索する。</p>
P23	<p><b>何とかしたい、タバコのポイ捨て！</b>  岡育実(総政3年)・阪口裕香</p> <p>近年、美しいまちづくりや環境美化に対する意識の高まりから、ごみのポイ捨て問題が注目を集めている。多くの地方自治体で、ポイ捨て防止に関する条例が施行され、法的整備が進められている。また、民間のボランティア組織や行政などによる清掃や啓蒙活動等も活発に行われている。それにも関わらず、公共空間におけるゴミのポイ捨ては後を絶たない。本研究では、公共空間の一つである駅前広場における現地調査に基づき、タバコに特化したポイ捨て行為の実態を把握するとともに、ポイ捨ての防止対策について考察する。</p>
P24	<p><b>もののけ姫太郎の河川レポート～指標生物と水質の関係を探る～</b>  秋田美帆(総政3年;宮川ゼミ)・栗林博己・玉井紘貴・田村啓将</p> <p>一般的に一本の河川は上流、中流、下流と徐々に汚さを増す。それに伴い生息する水棲生物の種類も変化すると言われている。河川の水質の評価方法として、指標生物といわれる生物の分布を利用する方法がある。指標生物について羽束川(三田市)において予備調査をした結果、一般に知られている指標生物と現場の状況が必ずしも対応しない場合があることが確認された。そこで本研究では、兵庫県の河川を調査対象とし、水質調査キットを用いて上流から下流にかけての水質の汚染具合を測る。同時に河川に生息する水棲生物の観察を行い、指標生物と水質の関係を検証する。</p>

P25	<p><b>2020年東京オリンピックによる葛西の野鳥の生息地の危機</b> 丸山泰輝(総政3年)・高橋由衣・喜多藍梨</p> <p>2020年に東京オリンピックの開催が決定した。大変光栄で、嬉しいニュースではあるが、それに伴い残念な事態も起こりうる。江戸川区の埋め立て地に広がる都立葛西臨海公園は、オリンピック競技であるカヌースラロームが実施される場所として提案されている。しかし、オリンピックが開催されることで、現在都民が自由に利用している場所が失われていることになってしまう。また、都立臨海公園内には、重要な野鳥など多く住みついていることから、反発の声も上がっている。</p>
P26	<p><b>エネルギーを栽培する住居～オーガニックエネルギーハウジングの提案～</b> 小林真洋(総政3年)・客野ゼミ・紀平茉梨絵・工藤美咲・福岡舞</p> <p>人々の暮らしには、作物を栽培し消費していくというサイクルがある。それと同様に、エネルギーを栽培し消費できるような、人と環境にやさしいライフスタイルも“アリ”ちゃう？私たちはオーガニックエネルギーという概念を提案したい。このためには「見える化」が重要な鍵となる。ここではエネルギーを可視化することで、一般の人々が楽しみを持って省エネに取り組み、電力を栽培することができるような住居をデザインする。GIS等の統計データを駆使して、神戸の土地性や周辺の環境を最大限に生かした環境共生型住宅の新しい姿を提案する。</p>
P27	<p><b>Webサイトにおけるデザイン及びコンテンツが与える効果</b> 大塚菜美子(総政4年)・赤塚里奈</p> <p>アーツコミュニケーションラボのWebサイト制作の依頼を引き受け、目的・要望に応じたWebサイト制作を通してWebコンテンツが与える影響について研究を行った。ヒアリング及び既存のWebサイトの分析によって挙げた問題点・依頼主の要望・目的を踏まえ、デザイン・文章の再考、コンテンツの整理、画像・映像の使用を通して閲覧者がイメージしやすいWebサイト制作を目指した。これらのプロセスについて示し、新しいWebサイトの紹介および公開後の効果について検証する。</p>
P28	<p><b>シンズリ道路建設プロジェクトにおける効果とさらなる発展のための課題</b> 竹田温美(総政3年)・西野ゼミ・牧野裕未・李彦暉・池本聖美・津田誠司</p> <p>西野ゼミでは、ネパールにおける貧困問題について研究を行ってきた。今年の夏には実際にネパールを訪れ、フィールドワークを行った。現地住民からの聞き取り調査から、シンズリ道路が建設された事により現地住民の生活に密接に関係する経済、農業、医療、教育など様々な分野での問題が改善され、住民の生活を豊かにしていることがわかった。今回の発表ではJICAのプロジェクトであるシンズリ道路建設プロジェクトを中心軸に置き、シンズリ道路が建設された事による生活、教育、農業、医療など様々な面への影響を述べる。また、今後さらなる発展のために必要となる課題を考案し発表する。</p>
P29	<p><b>ユーザビリティの視点からニュースサイトを再考する</b> 廣間千聡(総政4年)</p> <p>私たちが普段何気なく触れているインターネットのニュース記事やサイトですが、利用していると使いづらい、またはわかりづらいといった感想を持つ人もいます。私はニュースサイトについて、ユーザビリティの視点から再考しました。</p>
P30	<p><b>総政向けKGキャリアナビの提案</b> 石本善大(総政4年)</p> <p>私は今年度、就職活動を行った。関西学院大学総合政策学部の一員として就活をする上で1点疑問に感じたことがある。それは関学生専用就職支援サイト「KGキャリアナビ」について。私は就活中、KGキャリアナビをほとんど利用していない。利用したのは、リクナビやマイナビなどの大手就職支援サイト。理由はKGキャリアナビに使いにくさを感じたからだ。同時に総政専用のKGキャリアナビがあればいいのでは、とも考えた。そこで私は総政所属の学生に対して実際にインタビューを行うことでKGキャリアナビに対する意見を収集した。複数の意見を踏まえた上で総政専用就職支援サイト「総政向けKGキャリアナビ」をキャリアセンターに提案する。</p>
P31	<p><b>ドラマは社会的情勢をどのように反映しているのか。</b> 今中菖加(総政3年)・川添崇史・瀬尾亜月・高橋美智・当銘菜奈・中村麻由</p> <p>「あのドラマおもしろーい！」と、ドラマで話が盛り上がる時がありませんか？日本では1年間に平均160シリーズの連続ドラマと、約480本の単発ドラマが制作されているといわれています。私たちにとってドラマは身近な存在であり、その時代の社会情勢を映し出しているのではないのでしょうか。私たちは、視聴率をもとに話題性のあった過去30年間分のドラマをピックアップし、ドラマが社会的背景をどのように反映しているのかを考察します。また、今後制作されるドラマがどういった社会情勢を反映していく可能性があるのかを予想します。</p>
P32	<p><b>危ない</b> 森本風子(総政3年)・東裕也</p> <p>人の癒しとして身近な存在であるイヌ、そのイヌのドックフードについて考えたことがあるだろうか？まずは、ドックフードの歴史を振り返り、問題点を述べ、これからのペットフードのあり方について述べていきたいと思う。</p>

## 自由形式 第1日(11月15日)

自由形式 1	II-105 13:00-17:00	<p><b>Prologue to the Cool Network(by 都市研究会)～道×川の十字の軸づくり～</b> 尾上俊朗(総政4年)・石川翼・大久保宏美・鶴谷未来・原田悠里・宮地茉耶(総政3年)・深水広大・青木崇・細川茜</p> <p>近年、都市部の気温がその周辺の郊外部に比べて高温を示すヒートアイランド現象が注目され、大阪でもその影響が多い。そこで、大阪全体の中で涼しいと認定された場所をつなげられるネットワークを構築し、ヒートアイランド現象を緩和させ、低炭素社会の実現を目標とした大阪の都市デザインの提案をする。大阪全体の中で涼しいと認定された場所をつなげられるネットワークも構築する。</p>
自由形式 2	II-107 11:00-16:00	<p><b>『私たちが創るサポート～過去、現在そして未来へ～』</b> 秋山光(総政4年)・小浦萌子・源田信子(キャンパス自立支援室)・大江佐知子・高畑由起夫(教員)・李政元・山田孝子・小杉崇浩(総政2002年卒)・岩崎謙二(2010年卒)・杉本定之(2012年卒)</p> <p>『大学への進学が当たり前』になったこのご時世。けれど、『大学で学ぶ事ができるのは、当たり前』なのでしょう。『一人でも多くの障がい学生が学ぶ事ができるキャンパスを実現』すべく、キャンパス自立支援室では、障がい学生への修学支援活動を展開しています。その中でも、聴覚障がい学生への修学支援を実現する「ノートテイク制度」は、KSCで誕生してから10年目を迎えました。教職員と学生が一丸となって創り上げた支援の取り組みを学びながら、「大学で学ぶ事ができる意味」と「大学で学生ができる取り組み」について考えませんか。</p>
自由形式 3	II-108 11:00-12:00	<p><b>韓国語学習アプリの開発</b> キムヒョンドク(総政3年;Tijerinoゼミ)・阪口友暉・國政哲平</p> <p>スマートフォンのアプリケーション開発による、韓国語学習の推進</p>
自由形式 4	II-109 11:00-18:00	<p><b>新生する白山麓実習プロジェクト</b> 上林真弓(総政4年)・岡本紋奈・武本千枝・宇田学・大槻香奈・垣内万季・白石ひとみ・山本理奈</p> <p>白山麓実習プロジェクトは今年で4年目をむかえた。この実習は昨年度定年退職された久野武名誉教授のゼミ実習として2010年度に始まったものだが、今年度は後任の佐山浩教授を責任教員とし、新たにスタートを切った。そしてプロジェクトの規模拡大に伴い、関係自治体や企業との連携をより円滑にするためリサーチ・コンソーシアム協賛事業になったこと。また、卒業生や地元で支援して下さる皆さんを中心に、新しく市民団体ツナグ白山麓が発足したことを踏まえ、リサーチ・フェアでは、過去3年間の経緯を振り返ると共に、2013年今年度の活動等について発表する。</p>
自由形式 5	II-112 11:20-11:40	<p><b>Blenderで3Dの世界を実感してみよう</b> 曾朝文(総政3年;ティヘリノゼミ)・張良成・張曉琛</p> <p>今の世界では3D映画、3Dテレビをはじめ、最近では、3D印刷も注目が集まるようになった、3D技術が発展している一方、私たちの一般大学生にとって、見ると知ることができるが、実際に作ってみたい人も多いでしょう。ここで、私たちは、Blenderソフトを紹介して、それを“ドロー”アニメーションの例を通して、私たち一般大学生ではどんなことができるのかをみせて、この発表を聞かれた皆さんにも、今後、実際に手を動かして3Dの物作りをしようと思うようになってほしい。</p>
自由形式 6	II-112 13:00-13:15	<p><b>映像技術をより身近なものに</b> 木田万葉(総政4年)・狩山裕太・林将基・黒沢亮・瀧川恵・辰寿華・吉岡菜々美・前田涼汰・川谷友理恵</p> <p>今回の研究テーマは「映像技術をより身近なものに」である。そこで映像における最新技術であるプロジェクションマッピングを用いて、映像が持つ今後の可能性をより多くの人々に伝える。その手段として、まずいくつかの作品を実際に見てもらおう。作品には、身近にあるものを使って、プロジェクションマッピングがどのようなものであるかを体感してもらおう。その次に、基礎知識についての説明をする。現在活用されている例を用いて、様々な年代の方にも分かりやすいような10分程度のプレゼンテーションを行う。それを踏まえたうえで今後の展望について述べる。</p>
自由形式 7	II-203 11:00-16:00	<p><b>阿蘇の草原まるわかり情報室～人と自然の共生が生み出した千年の草原～</b> 今井田千佳(総政4年)・朝見美帆・牧野冴華(文4年)・外村隆浩・土井崇弘・日野絵里奈(総政3年)・辻井優利(総政2年)</p> <p>熊本県阿蘇地域には15,000haの草原が広がっています。日本一の広さを誇るこの草原は、放牧や採草、野焼きなど、人の手が加えられることによって千年以上維持されてきました。この地域は国立公園やジオパークに指定されており、草原を維持してきた農法や伝統文化は世界農業遺産にも認定されています。しかし、そんな阿蘇の草原は、暮らしの変化により存続の危機に瀕しています。私たちは阿蘇の草原を救うため、阿蘇草原再生協議会の助成を受けて草原維持活動に参加しています。そこで学んだ阿蘇の草原の魅力と危機、そしてそれを救う取り組みについて紹介します！</p>
自由形式 8	II-205 11:00-12:00	<p><b>広報用パブリックメディアセンター～広報用の映像の活用について～</b> 尾崎裕真(総政M2)</p> <p>本発表は広報活動で使用している映像について近年における映像メディアは個人単位での制作が可能になり、ある一部の独占的な情報ツールではなくなった。映像の力を以前よりも容易に手にできるようになった反面、インターネット上に映像があふれ出し、情報発信力が以前よりも落ちてしまっている。NPOやNGOの中には、情報発信力の乏しい団体が存在する。本発表はそういった団体に対して、広報に映像を提案し、さらにそれが情報発信力をどう持たせるかということに対して提案を行う。</p>
自由形式 9	II-205 13:00-14:00	<p><b>モーションキャプチャーによる、コンピューター作業の姿勢の自動補正に関する研究</b> 黒田智博(総政M2)</p> <p>IT化が進んだ今日において、コンピューターは必須のものとなってきている。それゆえ、日常的にコンピューターと向かい合うという状況は珍しくない。そのために、自然に姿勢が悪くなる、モニターと目の距離が近くなるといったことになり、腰痛や視力の悪化などの原因となる。本研究では、Kinectを使用して個人の姿勢の悪さの意識度を高め、姿勢の悪さを直し、健康を維持していこうというものである。</p>

## 第2日(11月16日)口頭発表A会場(Ⅱ号館101教室)

9:00	<p><b>できますか？ 人との会話で意思疎通～感情表現の歴史の変遷～</b>  <small>白石直希(総政3年; 鎌田ゼミ)・財田優・浮田壮規(総政4年)・金友裕貴・柴原真子・鶴美佳・増田直樹</small></p> <p>意思疎通の方法が多様化した現代では、人と人とのコミュニケーションの機会が急増した。本来、私たちは他者との相互関係を築くような感情表現を行っていた。しかし時代の変化により、感情表現は単純化され、双方向的な意思伝達の機能を失った。結果として、我々は知らず知らずのうちに他者との関係を希薄化させているのだ。本発表を通して理想のコミュニケーションとはどうあるべきかを検討し、現代の画一化された曖昧な感情表現が引き起こす問題を明らかにすることを目的とする。</p>
9:30	<p><b>「知る」を知ろう～知の概念を再考する～</b>  <small>齋藤僚太(総政3年; 鎌田ゼミ)・藤本真央・正木詩歩・池淑子(総政4年)・池田葉月・高谷昌樹・塚田瑞穂・吉岡太志</small></p> <p>人々は社会にあふれる数多くの知識に浸りきっている。現代においては、知識の多いことが知であるとみなされているのだ。そのような事態を象徴しているのが、ビッグデータである。知識によって、人の行為が集約され、予測可能なレベルまで管理されてしまっているのだ。そこで私たちは「知」の在り方を検討する。そして現代における知識量に依存した知識観を再考し、ふさわしい知の在り方とはいかなるものなのか探求する。</p>
10:00	<p><b>迫るマトリックス化～機械との共存を考える～</b>  <small>細井美里(総政1年; 鎌田ゼミ)・佐橋美咲・坂上梨佳・寺本理紗・磯野みなみ・武田奈桜・岡部寛・梅原倅</small></p> <p>近年、ITの発展は目覚ましいものがある。次から次へと競うように新しい商品を開発し、我々消費者も競うようにそれらを手に入れようとする。特にバーチャルリアリティに関しては、人間の嗅覚や触覚に作用するところまで技術が進歩した。そしていずれは機械が我々の考え方、感じ方を誘導したり、制限したりするようになるのではないのか。人々が機械に判断を委ねる世界がくるかもしれない。本発表では、バーチャルリアリティの拡大が我々に及ぼす影響を考え、機械と共存していくために何が重要かを検証する。</p>
10:30	<p><b>関学留学生日本語能力を向上させる提案</b>  <small>任徳盛(総政4年; 伊佐田ゼミ)</small></p> <p>2012年の外国人留学生の就職調査によると、約6割の学生が日本での就職を希望するが、内定率が僅か3割であった。内定率が低い要因としては、日本独特の就職活動の形態と日本語能力の問題があると思われる。一方、日経就職ナビの2011年の調査によると日本企業が留学生を採用する際、最も重視するものは「コミュニケーション能力」と「日本語能力」である。さらに、留学生に期待する日本語能力というと、文系・理系ともに70%前後の企業が仕事上支障なくビジネスレベル以上を期待している。留学生は日本の大学から卒業し日本に就職しても、帰国しても、将来日本との関連ある企業に携わることが多いであろうが、彼らは日本の企業で仕事上支障なく日本語能力がまだ身につけてないのではないかと私は思う。本研究は留学生の日本語能力を向上させるため、また日本語の勉強での困ることを解決するため、提案する</p>
11:00	<p><b>日本におけるマイノリティ報道の現状と課題</b>  <small>興津洋樹(法4年; 岡本ゼミ)・中原雅人・小宮山愛・藤原真理奈・伊藤貴博・宮田真帆(法3年)・三隅貴史・山元薫・栗山莉瑛子・熊谷菜穂</small></p> <p>当グループでは、新聞や雑誌などのメディアにおける報道が、マイノリティ問題にどう影響しているのかを研究し発表する。普段の生活で、性的少数者や障がい者、外国人などのマイノリティに直接会って情報を得ることはあまり容易なことではないため、マスメディアを通して得られる情報が重要となる。したがって、マスメディアは正確な情報を把握し、誤解を招かないような報道をする必要がある。研究で新聞・雑誌各紙におけるマイノリティ報道の数やジャンルなどを把握。その上で、それらの報道が市民にどう影響をもたらすかを分析する。</p>
12:00	<p><b>日本の難民政策の問題点とその解決策について</b>  <small>天宅佐季(法3年; 水戸ゼミ)・新見京子・伊藤紫苑・高島里実・中村知齊</small></p> <p>2013年現在、世界の難民数は1540万人以上であるとされている。難民とは、内戦や紛争に巻き込まれたり、人種、宗教、政治的な立場が違うといった理由により迫害を受け、生命の安全を脅かされているために国籍国外へ逃げ出さざるを得ず、国際社会からの保護と支援を必要としている人々のことである。我が国も、難民条約に加入し、難民認定制度を導入した。しかし、現在の日本では、申請数に対して、認定数はわずかである。この発表では、日本における難民認定制度の問題点、またそれに対する改善策を提案する。</p>
12:30	<p><b>テロ vs. 国家～暴力を武力で制することはできるのか</b>  <small>スミス・ジュリエット(神外大学3年)・井上実可子・橋本孟・下釜里英</small></p> <p>私たちのテーマは「テロ組織に対する国家の武力行使のあり方」です。2001年9月11日、アメリカ同時多発テロ事件が起きました。アメリカは一連のテロ攻撃に対抗する手段として自衛権を用いましたが、自衛権を発動させるためにはクリアしなければならない3つの条件、①必要性、②均衡性、③武力攻撃の発生があります。アメリカが9.11時に用いた自衛権はこれらの条件に合致していたのか、ひいては自衛権をテロ攻撃に援用することはできるのか、ということを検証します。</p>
13:00	<p><b>平和のための憲法改正</b>  <small>清水将太郎(総政3年)</small></p> <p>戦後68年を経て日本は今、重大な事態に直面している。中国、韓国との領土問題を巡っての対立や北朝鮮の核武装等、日本が長年保ってきた平和が徐々に脅かされようとしている。最悪の場合、他国との武力衝突も考えられるという事態も今後起こり得るかもしれない。今まさに平和維持の為に、我々国民一人ひとりが考えるべきことは何なのか。日本国憲法九条を改正し、自衛隊の集団的自衛権を認めることは果たして、軍事的抑止力として有効なのか。本発表では、今後日本が進むべき未来を憲法九条改正に対し、肯定的にとらえた上で論じていく所存である。</p>

## 第2日(11月16日)口頭発表B会場(Ⅱ号館102教室)

9:00	<p><b>インドネシア、ジャワにおける地域コミュニティの動き</b>  <span style="float: right;">水野久仁香(総政4年)</span></p> <p>インドネシアには多様な地域コミュニティが存在する。ジャワにおいては、カンポンという、同民族や同郷者の繋がりによって形成された地域コミュニティが広がっている。カンポンは地域の文化を色濃く残し、住民たちの強い連帯によって維持されているが、同時に、グローバル化や市場経済の影響を受け、変化し続けている。本発表では、実際のフィールドワークをもとに、対象カンポンの都市における社会的役割を位置づける。そして近年の都市の発展の中、カンポンがどのように維持されているのか、その特徴を分析する。</p>
9:30	<p><b>甲子園の改善～地域と結びつく甲子園を目指す～</b>  <span style="float: right;">住田昂一郎(御影高校2年)・鮫島葉奈子・小野晴美・光田優花・河口信亮</span></p> <p>この夏行われた全国高等学校野球選手権大会は、今年で95回目を迎えた。誰もが知っている甲子園。だが、甲子園球場で行われている高校野球やプロ野球によって生じる街の問題については誰も気にとめてはいない。住民が困っていることを改善するにはどうすればいいのだろうか？また野球観戦者がより快適に野球を観戦できるようにはどうすればいいのだろうか？今回私たちは交通機関、甲子園球場周辺の住民、遠方からの宿泊を伴う野球観戦者の3つに着目し、すべての人々が快適に過ごせる甲子園について考えた。</p>
10:00	<p><b>グリーンツーリズムによる地域活性化の可能性</b>  <span style="float: right;">松尾秀貴(総政3年)・斉藤ゼミ・小坂朋代・長田幸菜・下山翔子</span></p> <p>人口減少・高齢化問題により、都市部と農山漁村地域でとくに経済的格差が広がりつつある。食文化や伝統工芸など、かつて日本の固有の文化を支えてきた農山漁村地域を守っていかねばならない。そこで、私たちは、欧州が発祥であるグリーンツーリズムに焦点をあてた。グリーンツーリズムとは、都市圏の住民が農山漁村地域で交流する取り組みである。日本全国でグリーンツーリズムを行っている市町村にアンケート調査を行い現状と課題を明確にし、日本型グリーンツーリズムは地域活性化に繋がるかどうかを考察する。</p>
10:30	<p><b>こんなところにパワースポット！？～アナタは布引の滝を知っていますか？～</b>  <span style="float: right;">平野克弥(御影高校2年)・窪田麻矢・吉川愛恵・岩崎はるか・越田創</span></p> <p>皆さんの神戸に対するイメージは？「近代的な街」「西洋風な街」「おしゃれな街」。では、神戸に自然はないのでしょうか？いえいえ、こんなに近くにありますよ！神戸市中央区にある布引の滝は、平安時代に成立したといわれている伊勢物語にも記された、古くからの名所です。しかし私たち若者は、その存在をほとんど知りません。こんなに身近に伝統がある滝や自然があるのに、関心を持たないのはどうしてでしょうか。私たちは、もっとたくさんの人が布引の滝を訪れるべきだと考え、布引の滝の魅力を発信します。</p>
11:00	<p><b>KSCハザードマップの提案とこれを用いた大学生の防災意識の向上</b>  <span style="float: right;">細川茜(総政3年)・客野ゼミ・渡邊友梨・恩賀美奈・麻植愛菜・辻田百合菜</span></p> <p>東日本大震災での経験などを踏まえ、自分達の手で災害に対応することが重要になってきている。しかし、大学では災害に対する取り組みが十分でなく、大学生にとって災害は非日常的のままであるといえる。しかし、私たち大学生は、防災への意識を高めて、備えを十分にしていく必要がある。その手段として、私たちは大学キャンパスのハザードマップ作成を提案する。その裏付けとして、大学の災害リスクを調査したうえでハザードマップを作成し、シミュレーションを行い、ハザードマップの重要性、可能性について述べる。</p>
11:30	<p><b>「優しさ拠点」としての商店街～「市民参加型のまちづくり」はいかにあるべきか～</b>  <span style="float: right;">飯尾祐介(東海高等学校2年)</span></p> <p>「強い経済には、優しい社会が必要。」「強い国より優しい社会」そんなキャッチフレーズを頻りに目にする昨今、今の日本社会が渴望するものがこの「優しさ」という言葉に形容されているのだとすれば、この言葉が意味するところのコミュニティ、とりわけ地域コミュニティの活性化についての提言は喫緊の課題である。本発表では、地域コミュニティを取り巻く課題を指摘し、それらを克服する具体的な施策を、私たちにとってもっとも身近な地域コミュニティの一つ、商店街にフォーカスして「市民参加型のまちづくり」という観点から提言する。</p>
12:00	<p><b>ポータライナーの利用者を増やすために～神戸新交通株式会社の工夫に加えて～</b>  <span style="float: right;">本田陽香(御影高校2年)・丸山莉央・若林千明・須波涼・田鍋智之</span></p> <p>日本で初めて無人運転で、営業を開始したポータライナー。しかし、JRや阪神に比べて料金が高めです。その要因の一つは、ポータライナーを運営する神戸新交通株式会社が、阪神淡路大震災の被害により、多額の借金を抱えていることです。私たちは、その借金を少しでも減らすために、ポータライナーの利用者を増やすことに着目しました。すでに、運営会社は、多くの工夫をしています。それらの工夫に加え、車ではなくポータライナーに乗ってもらえるような提案を、高校生の視点から行います。</p>
12:30	<p><b>公益法人等の東日本大震災での支援活動～寄付行動を中心に～</b>  <span style="float: right;">谷政敏(法学研究科M1)・興津洋樹(法4年)・藤原真理奈・三隅貴史(法3年)・中原雅人(法4年)・小宮山愛・伊藤貴博・宮田真帆(法3年)・山元薫・栗山莉瑛子・熊谷菜穂</span></p> <p>東日本大震災では様々な団体が支援活動を行った。その中で、公益法人(公益社団法人、公益財団法人)等は、どのような支援活動をしたのであろうか。内閣府公益認定等委員会が調査・発表しているデータをもとにテキストマイニングを行って、特に寄付行動を中心に特徴を把握し発表する。公益法人は、現在110年ぶりの制度改革が進んでおり、財団法人相撲協会が取りざたされているように大きな変革期にある。これら団体の「公益性」が問い直されている。NPO、つまり非営利・公益団体の重要な法人類型である団体の活動の一端を明らかにする。</p>

## 第2日(11月16日)口頭発表C会場(Ⅱ号館111教室)

9:00	<p><b>今でしょ? アジア共通通貨～ユーロができて、どうしてアジアにできないの～</b>  <i>岸本夏子(総政3年;坂口ゼミ)・藤本舞・田中絢子・井上千湖・古場健吾・水田優梨</i></p> <p>アジアの平和と発展を実現させたい。そのためには、果たして何が必要だろうか? 私たちは、協力への切り口としてASEAN+3(日中韓)における共通通貨導入を提案したい。今やアジアには、世界人口の半分が集中し、総生産のシェア3割を超える勢いにある。しかし、アジアの経済2大国である日本と中国の関係の悪化をはじめ、様々な問題を抱えている。欧州は大戦を経た歴史を乗り越え、協力を目指してきた。そこで、私たちは共通通貨導入が協力という役割を担うと考える。EUと比較しながら、アジアでの共通通貨導入をリサーチする。</p>
9:30	<p><b>「国民に分かりやすい債権法改正」は必要か、またそれは可能であるか。</b>  <i>松山謙一(法3年;原田ゼミ)・荒瀬剛志・生本あい・瀬戸結加里・永井宏昂・榎山実那子・和田聡・渡部友介</i></p> <p>現在、法務省で債権法改正が進められている。これまでも民法について、部分的な改正はみられたが、大規模な分野全体での改正については制定以来のこととなる。そこでの理念として「現代化を図ること」、「国民に分かりやすいものとする」ということがあげられている。「国民に分かりやすい」という曖昧だが納得せざるを得ないこの言葉が民法改正のイデオロギーとしてどう働くのか。その功罪、特に罪の部分に着目し、「国民に分かりやすい」という言葉が示す意味と果たしてきた役割について、主に立法資料(法制審議会の審議資料)に依拠し、学者及び実務家による議論をも参考にしつつ検討する。</p>
10:00	<p><b>債務不履行の帰責事由の有無について</b>  <i>田中達也(法3年)・藤森大輔・齊藤謙吾・中島彬宏・船津飛鳥・菊池杜夫・松島真之介・榎本太一</i></p> <p>民法改正において、重大な論点である債務不履行の帰責事由の有無について、原則に基づき検討していく。債務不履行の帰責事由があるのとないのでは、どのような差があるのか私達に与える影響とは何なのか、民法改正において重要な意義を持つ債務不履行を私達はどのように考えるべきなのかを探求する。</p>
10:30	<p><b>TPP参加で日本の農業は強くなる</b>  <i>グエンズイクオン(総政3年;坂口ゼミ)・岩永薫・大槻優・坂田愛・稲垣成美</i></p> <p>2007年から2008年にかけて、発生した世界的な食糧危機は日本の食糧問題を浮き彫りにした。当時から、食糧自給率の低さが懸念されているが、現在も有効な対策が取られることなく、この問題は解決されていない。そんな中、最近話題となったのはTPP(環太平洋経済連携協定)参加の話が持ち上がり、農業を巡って日本を二分する論争が始まった。では、なぜ日本農業はここまで注目され、今まで実施されている政策は日本の自給率低下の問題とどう関わっているのか、を皆さんと一緒に見ていきたい。そして、日本農業を強くするために、どうすれば良いのかという課題も今回私達のリサーチを通して、報告させて頂きたい。</p>
11:00	<p><b>危険負担の廃止と解除</b>  <i>竹内拓磨(法3年)・片山雄也・今村香央里・森陽真・仁平由莉・前野航平・柁柳智広・西田草太</i></p> <p>いま、憲法だけでなく、民法改正についても盛んに議論が行われているのをご存知ですか? 民法改正を広く知ってもらうために、民法の「危険負担」というテーマについて調べました。危険負担は以下のような例に適用されます。例えば、ここに甲と乙がいるとします。甲は乙から家屋Aを5000万円で購入する契約を結びました。しかし、乙が甲に家を引き渡す前に竜巻によってAは倒壊してしまいました。普通ならば、甲は代金を支払う必要はないと考えますよね。しかし、このような場合でも甲は代金の支払いをしなければならないという判決が出されているのです。もし、債権法が改正されるならば、この問題はどのように解決されるのでしょうか?</p>
11:30	<p><b>現代社会における消費サイクル～なぜすぐ買い換えるのか～</b>  <i>山本久瑠美(総政1年;鎌田ゼミ)・三宅幸・藤原良介・河北和磨・山本大貴・上之郷谷菜月・岡里沙・梅崎健宏</i></p> <p>現在は、大量生産・大量消費社会である。スマホの例にみられるように、企業が次々と新商品を売り出し、消費者が自ら考えることをせずに、すぐに買い換える傾向が見受けられる。現在その傾向がより加速していることが問題だと私たちは考える。この問題を解決するためには、消費者が、自分が無反省に商品を買換えようとする傾向の中にあることに気付く必要がある。本発表を通して、現代社会における消費活動のプロセスを示し、消費行動について立ち止まって考える助けとする。</p>
12:00	<p><b>Water in PNG</b>  <i>行本良子(法3年;水戸ゼミ)・山本佳美・船元大輝・六車浩士(法4年)</i></p> <p>私達のグループでは環境問題の中でも、私達に身近である「水」に着目した。日本では簡単に安全な水を手に入れることができるが、世界の半分以上の国は簡単にそれが手に入らない。WHOの統計を見ると、20年前で安全な水を手に入れることができる割合が低かった国も現在では改善されている国は少なくない。しかし今回の研究で私たちが注目するパプアニューギニアという国はアジア・オセオニア地域の中で極めてその割合が現在でも低い。私達はこの国に注目し、現状を改善するためにどうすればいいか、他国の事例研究をもとに研究を行った。</p>
12:30	<p><b>朝型であなたも自分磨き</b>  <i>松崎椋亮(総政3年)・仲河真里・田中里奈・上田美穂・羽場稜太</i></p> <p>私達は、夜更かしや夜遊びが多い人は支出が多く無駄使いが多いのではないかと、起床時間が早い人は計画的な出費をしており経済的ではないか、といった疑問を持った。朝型はもっとも経済的で有益に支出しており、自己投資をしている。つまり朝型はメリットが多いので、学生は朝型になるべきだという仮説を検証したいと思います。</p>

## 第2日(11月16日)口頭発表E会場(Ⅱ号館204教室)

9:00	<p><b>大地に還る、樹木の下で。～少子高齢化社会における墓地需要と都市風景の再構築に関する研究～</b> 吉川 亮(総政研究科M1)</p> <p>わが国は今後さらに少子高齢化に向かい、「多死社会」と言われるほど、年間死亡者が急増するとされている。それに伴い「死を受け止める空間」が必要とされ、従来の墓地形式では墓地用地不足に陥る。そこで本研究では、新たな埋葬形式として普及しつつある「樹木葬」に関し各種調査を行い、古くて新しいこの埋葬形態に関する考察から、その形態の設計提案を行う。この提案の主軸は、「死してなお自分らしく、自然に還りたい」という人間の要求に対する建築的応答として、過密都市部に「樹木葬」を行う緑豊かな風景としての建築を設計する。</p>
9:30	<p><b>中国の中小企業に求められる経営戦略～浙江省の民営中小企業を中心として～</b> 陳思佳(総政研究科M2)</p> <p>中国国内企業に産業空洞化現象が始まった。特に中小企業はその傾向が顕著である。不良品や模倣製品という問題が将来の経済発展を妨げている。ゆえに、中小企業の問題を重視する必要がある。研究の目的は中国における民営中小企業に求められる経営戦略を打ち出すことであり、浙江省の民営中小企業を対象として、今後グローバル経済化の下で、成長していくために必要とされる経営戦略を探る。仮説戦略の実行性を検証するため、現地の10社の経営者にインタビューをおこなった内容を整理して、分析する。</p>
10:00	<p><b>世界文化遺産の観光開発における観光的環境の研究～麗江古城の事例から～</b> 高瑞(総政研究科M2)</p> <p>中国雲南省麗江古城は、歴史的景観とそれを構成する建造物群、並びに地理・歴史的背景が評価され、1997年に世界遺産へ登録が行われた。それから当該地域における観光客数は急激に増加し、観光産業をめぐって大きな経済的効果をもたらしている。一方、観光開発の発展に伴い、現地住民人口の減少や、当地における有形・無形を問わない文化遺産の消失・崩壊といった社会問題が表面化している。ユネスコもこの点を指摘して、中国政府に向けた警告を行う事態となっている。このような背景から、本研究の目的は麗江古城の観光環境に関する調査を通じて、基本的データを収集することにある。また、世界文化遺産の観光開発における環境保護や文化遺産の保全をサポートするために、持続的な開発の実現を求める。</p>
10:30	<p><b>環境税は地球温暖化に効果がないのか～価格弾力性にもとづく考察～</b> 廣瀬雄一(総政研究科M1)</p> <p>現在、地球温暖化は進行の一途を辿っている。地球温暖化に対して有効だと考えられる政策措置は環境税である。環境税とは一般に石油や石炭などのエネルギーに対して課税を行うことで、需要量を減少させるものである。しかし環境税反対の立場である日本経済団体連合会は環境税に効果がないとしている。環境税に効果があるのかどうかについての指標に価格弾力性がある。価格弾力性とは、財の価格が1%変化したときのその財の需要の変化率である。環境税に効果がないとは価格弾力性がゼロであり、この当否を明らかにする。</p>
11:00	<p><b>アマチュア無線は防災に役立つのか? ～「アマチュア」と「ボランティア」の境界～</b></p> <p>災害時の救援活動に役立つとの理由で、アマチュア無線がにわかに脚光を浴びている。日本のアマチュア無線家の数は、長らく減少を続けてきた。しかし近年、それらが共に漸増しているとの報告がされている。その背景の一つとして、東日本大震災を機に、災害時におけるアマチュア無線の有用性が再認識されたことが挙げられる。本発表では、災害時においてアマチュア無線を有用なものとする上での課題を指摘し、併せて、それらの課題を解決するための具体的な施策を、「アマチュア」と「ボランティア」というキーワードを用いて提案する。</p>
11:30	<p><b>大部制を中心としての中国行政改革</b> 郭威(総政研究科M2)</p> <p>中国の改革開放以来、社会の経済発展を適応するために、様々な行政改革が実施され、政府職能の転換が加速している。しかし、公務員の組織機構を改善しても、色々な問題が存在している。そのために、2007年に行政管理体制改革に対して、縦割り行政の関係を整理して、政府機構の合併を推進し、職能を統一するための大部門体制の検討が要求されるようになった。現在の中国の社会主義市場経済の発展程度において、なぜ大部制を実行するのか、そこでの具体的な実践とは何か、大部制改革を中心とした政府機構の改革について、その影響を研究する。</p>
12:00	<p><b>日系小売業の海外進出における経営戦略～コンビニエンス・ストアの事例に基づいて～</b> 徐潔(総政研究科M2)</p> <p>現在日本では、デフレから回復傾向の経済のもと、流通業は全体的に企業数や店舗数が過剰となっている。小売業の出店競争や価格競争は激しく、業績が悪化し、人員削減などを実施している企業もある。合併するスーパーや百貨店、専門店も少なくない。一方、海外市場に目を向けると、近年、消費市場として存在感を高めているアジアでは、所得水準の向上とともに、小売りチャネルが個人経営の小規模店からスーパーマーケットやモールなどの近代的流通店へシフトする動きが盛んである。そこでは、日本企業が参入可能な小売りサービス市場が形成されつつある。本研究は、経済のグローバル化が進行する中、日本小売業(百貨店、スーパーマーケット、コンビニなど)の海外進出における新しい経営戦略を提案することを目的としている。</p>

## ディベート大会(11月16日 10:00-16:30)

### (1) 論題

「日本は道州制を導入すべきである。是非か非か。」

■ 現行の都道府県制を廃止して全国に7~11程度の道・州をおき、外交・防衛・通貨以外の権限を基本的にすべて国から道・州に移すものとする。

■ 地方間の財政的格差を調整するために、国が必要な課税処置をとることを妨げない。

予選	第1会場(Ⅱ-205) Aブロック・Bブロック	第2会場(Ⅱ-206) Cブロック	第3会場(Ⅱ-209) Dブロック
10:00~10:30	柴山ゼミX 山田ゼミ		井上ゼミX 関根ゼミ
10:30~11:00	松村ゼミX 安ゼミ		西野ゼミX 四方ゼミ(3限)
休憩			
11:15-11:45	柴山ゼミX 坂口ゼミ		関根ゼミX 四方ゼミ(3限)
11:45-12:15	松村ゼミX 小西ゼミ	四方ゼミ(1限)× 清水ゼミ	井上ゼミX 西野ゼミ
休憩			
12:30-13:00	山田ゼミX 坂口ゼミ	四方ゼミ(1限)× 齊藤ゼミ	関根ゼミX 西野ゼミ
13:00-13:30	安ゼミX 小西ゼミ	清水ゼミX 齊藤ゼミ	井上ゼミX 四方ゼミ(3限)

この論題はディベート甲子園(2011年第16回大会高校の部)で採用されたものです。

2つの補足説明でディベートの論点がより絞られています。

準決勝		
14:30~15:00	Aブロック1位X Bブロック1位	Cブロック1位× Dブロック1位
16:00~16:30	決勝	第Ⅲ厚生棟

(<http://nade.jp/koshien/history#16th>参照)

### (2) 試合の流れ

■ 1試合の出場人数は3~5名とします。各試合の出場メンバーの編成は各基礎ゼミに委ねます。

- ・試合前の集合時に、出場メンバーを申し出る(以後のメンバー交代は不可)。
- ・試合中に、出場メンバー以外の方が、出場メンバーとコミュニケーション(助言・会話・ジェスチャー等)をすることは認めません。
- ・試合中に、出場メンバーがインターネットで通信をすることは認めません。

■ 出場メンバーが確定した後、両ゼミの代表者(出場者)にじゃんけんをしてもらいます。

- ・勝った方が「肯定側」、負けた方が「否定側」となります。

### (3) 1試合の流れ(時間配分)は、右表の通りです。

■ 立論と最終弁論は、それぞれ1名が代表して話すものとし(同一人物でも可)。ただし、質疑においては、その限りではありません。

■ 質問者は、質問に対する回答が冗長で不誠実な場合は、回答を遮って、次の質問に移ることができます。

■ スピーチ以外の手段による資料提示(ポスター、携帯端末、黒板の使用など)は認めません。

肯定側立論	3分
否定側立論	3分
作戦タイム	2分
肯定側反対尋問	4分
否定側反対尋問	4分
作戦タイム	2分
否定側最終弁論	3分
肯定側最終弁論	3分
計	24分
1クール	30分(交替時間6分)

### (4) 審査基準

■ 審判による判定は、以下の2点を総合的に評価して行います。

- ・建設的な議論への貢献
- ・主張の説得性・論理性

■ 質疑は、相手側の立論をより理解するためのものです。以下のような質疑は、ふさわしくありません。

- ・質問者であるにもかかわらず、一方的に意見を言う。
- ・「YesかNoでお答えください」のように、相手の自由な回答を制限する質問をする。
- ・誠実で簡潔な回答を、質問者が途中で遮る。

# 総合政策学部同窓会企画アポなしOBOG訪問

在校生の皆さんへ

総合政策学部同窓会では、今年もリサーチ・フェアにて総合政策学部同窓会OBG企画を行うこととなりました。

本企画では、昨年に引き続き、OB・OG企画での座談会を行います。卒業後、OBGが実際にこれまでの社会人としての経験、就職後に訪れた仕事上・生活上の壁や転機にどう対処してきたかなどの体験をもとに、学生との相互交流や意見交換、議論を活発に行って頂きたいと思っています。チューターの皆様のご協力を得て、今年も企画を盛り上げて学生、OBG共に実りのある交流が出来ればと思っていますので、在校生の皆様には、是非、ご参加ください。

関西学院大学総合政策学部同窓会

## 13:30～15:30 (各ブース参加自由形式)

### アカデミックcommonsにて開催！各ブース会場は当日詳細掲示します

ブース名	チューター名 ゼミ 所属 職種	プロフィール・内容  キーワード
1 現役大学院生に聞く (将来と海外)	駒田 龍 2012卒小西ゼミ 関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科 国際経営コースM2	大学時代は、小西ゼミでフィリピンへの教育支援活動に参加したほか、スキューバダイビングと海外旅行に明け暮れ、バイトをしながら遊び回る毎日でした。大学院へは、学部時代に頂いた内定を断って入学しました。MBA(経営管理学修士)として、外国人が9割の学校で学んでいます。現在は就職活動を終えて(外資系、国内大手中心に活動しました。)、卒業に向けて修士論文に取り組んでいます。文系大学院での生活や学部・大学院での就職活動、英語についてなど興味のある方、お待ちしております！  【キーワード】①大学院 ②就職活動 ③MBA ④英語
	中澤 芽衣 2013卒西本ゼミ 京都大学大学院 大学院博士課程前期	中学生の時に教育支援という形で出会ったウガンダ共和国。このことをきっかけに、日本と全く状況が異なるアフリカ大陸に興味を湧き、同時に開発などにも興味をもつ。その結果、総合政策学部へ入学。学生時代はベトナムのNGOを通して孤児院でインターンをしたり、模擬国連世界大会等と、学外のイベントにも積極的に参加していた。このような機会を通して、就職するよりも、進学により一層目を向けるようになった。そのため現在、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻博士一貫コースに在籍する。  【キーワード】①アフリカ ②地域密着 ③大学院 ④進学 ⑤研究
	北野 香 2013卒小西ゼミ 鳴門教育大学 国際教育コース	3年次に総政へ編入学しました。教育と国際協力に関心があり、活動しておりました。所属する小西ゼミから発足したBridge for children, KGUで、フィリピンの子どもたちへ教育支援や、兵庫県、大阪府の小中学校で国際理解教育を行っていました。また、CLUB GEORDIEにも所属して、同じく開発教育を小中高生対象に行っていました。卒業後は教員になろうと考えておりましたが、縁があり現在の大学院に入学することになりました。  【キーワード】①大学院 ②教育 ③国際教育 ④教育協力
	松下明日香 2013卒西本ゼミ 鳴門教育大学 幼年発達支援コース	大学時代は教育と途上国開発に関心があり、地元中学校での学習支援や、インドネシアでの進学や教育意識をテーマとしたフィールドワークなどを行いました。卒業後の進路を考えるにあたり、今まで持ち続けてきた興味や問題意識とどのように関わっていくか悩んでいましたが、現在は大学院で幼稚園・小学校教諭免許の取得と、研究的な知見を身につけることを目指しています。  【キーワード】①教員免許取得 ②大学院
2 大学院から研究者・教員へ	松本 健一 久野ゼミ 滋賀県立大学 教員	3年生終了後に関学を退学し、早稲田大学大学院修士課程に進学。博士課程で総政(福田研究室)に戻り、2007年3月に修了。専門は環境/エネルギー政策・経済学。日本学術振興会特別研究員、国立環境研究所ポスドクを経て、現職。大学院進学、研究者、大学教員への道についてお話をできればと思います。また、皆さんにとって最も身近な存在である大学教員の実態を暴露(?)します。  【キーワード】①研究者 ②大学教員 ③大学院進学
3 グローバルエコシンキング	遠藤 峻 2005卒久野ゼミ ㈱三菱総合研究所 研究員/コンサルタント	卒業後は京都大学大学院に進学しました。2007年に院を修了して、現在の会社(シンクタンク、コンサル業)に就職。環境・エネルギー研究本部という部署に所属し、水、廃棄物、エネルギーに関する海外関係の調査やコンサルティングを行っています。  【キーワード】①大学院進学 ②環境系の就職 ③海外業務
4 資格を活かすスペシャリスト(次頁に続く)	長谷川大輔  2004卒 Greeneゼミ 小林エステイト	大学を選ぶ時、自分が何をやりたいか考えた結果、自分が何をやりたいか探せる大学に行こうと決意して、関学の総政に入りました。大学では好きなだけ本を読み、SCS活動を通じて面白い友人を増やし、やりきった感で一杯です。大学を卒業する頃には、資格を取って働く決意をしました。世の中で役立つには、ジェネラリスト(総合的な仕事人)かつスペシャリスト(専門的な仕事人)にならないといけない、というような本を読んで決めました。不動産鑑定士の試験科目は①民法、②経済学、③会計学、④行政法(都市計画法、建築基準法等他いっぱい)に⑤鑑定評価基準ですが、これって世の中を総政的な枠組みで考えるにはバランスの良い科目だと思いませんか？ 足かけ3年ぐらいい勉強して、4500人ぐらいい受けて合格者は100人切りましたが、何とか合格して、今年で実務5年目です。今の自分があるのは、やはり総政に入ることができたからだと思います。そして在学中から興味があったのは、「総政的に働くこと」。大学時代を振り返り、母校の現役生と、そんな話ができることに感謝しています。  【キーワード】①不動産鑑定士 ②総政的に働く ③色々、話がしたい人も、話を聞きたい人も歓迎です

4 (続き) 資格を活かす スペシャリスト(続き)	岡本 卓也 2000卒長峯ゼミ あざさ監査法人 専門職(会計)	大学時代は過疎の村の町おこしの研究や、中学生等に環境教育を実施するサークルで活動していました。野球が好きで、K.G Sharksの2期生キャプテンでした(2番ショートが定位置)。大学の4年間でかけがえのない生涯の友人や経験を得たことは、今も財産になっています。卒業後は一般企業に就職しましたが、手に職をつけて社会に役立ちたいという思いから、会計士資格をとりました。今の会計事務所では10年目になり、会計監査の他、株式上場支援やM&Aに関する財務調査・アドバイス業務に携わっています。 <b>【キーワード】①手に職 ②会計・監査の仕事 ③グローバル人材 ④社会に役立つ ⑤転職</b>
	笠井 正法 2004卒 陣内ゼミ 税理士法人トーマツ 会計士	学生時代は野球サークル「シャークス」に所属。毎日野球の練習に明け暮れる。ゼミは陣内ゼミ(言語学)で方言についての卒論を書く。就職活動が思うようにいかず、悩んでいたところ、会計士という資格に出会い、卒業後に勉強をスタート。2回の受験を経て、2007年公認会計士試験合格。合格後、あらた監査法人(PricewaterhouseCoopers)名古屋事務所に入所し、某世界的自動車メーカーの連結グループの監査に従事。2011年公認会計士登録。5年半の監査経験を経て、この秋より税理士法人トーマツ(Deloitte)に転職。将来は独立開業を目指し、現在は税務の仕事に従事している。 <b>【キーワード】就活で悩む 資格取得 会計士 監査 コンサル 税務 独立</b>
	市川 久美子 2003卒Greeneゼミ 青山特許事務所	大学時代はNPO活動と旅行に勤しみました。卒業後に就職した会社で3年ほど事務職をしていましたが、物足りなさを感じて退職。1年半勉強して弁理士試験に合格し、特許事務所に就職しました。商標担当の弁理士(知的財産の専門家)として、国内外のお客様(主に企業知財部・海外の弁護士・弁理士)と仕事をしています。1歳の男の子のママで、今年5月に産休・育休から復帰しました。 <b>【キーワード】①専門職(法律系) ②海外とやりとりする仕事 ③英語スキルは必須 ④自分次第でいくらでも面白くできる仕事 ⑤転職経験あり ⑥産休・育休から復帰 ⑦仕事と子育ての両立</b>
	垣尾 俊彰 2012卒加藤ゼミ 総合政策研究科都市政策 株式会社 翔設計(内定) 建築設計・コンサル	学部時代は旧建築プログラムを実施、加藤ゼミで建築・空中庭園(卒論)を研究。当時サークルには多数所属(ECOHABI、軽音、都市研究会など)。休学しての留学経験有。現在はコンバージョン建築の有効性を研究。学会若手研究会(都市空間のつくり方研究会)、まちなみやまみ(古民家再生NPO)等の課外活動にも参加。組織設計事務所といわれる建築設計の会社でアーキテクトとして、来年度より就業予定。 <b>【キーワード】①建築設計 ②課外活動 ③大学院進学</b>
5 採用担当 が見てる トコ	戸田裕朗 2003卒Greeneゼミ 株式会社ビズリーチ 事業企画	学生時代は、専らバイトに明け暮れる→長期休みで海外へ を繰り返していました。新卒で入った会社で人事に配属されましたが、2年で退職。その後はリクルートキャリアで採用チームのマネジメントをしたり、メーカー人事で採用全般と制度設計や研修講師をやったりしてます。人事関連は表も裏も(?)全般お話できると思うので、気軽に聞いてください(笑)。 <b>【キーワード】転職しました、卒業後10年、キャリアデザイン</b>
	青井 孝之 2004卒Greeneゼミ Deloitte Touche Tohmatsu LLC/有限責任 監査法人トーマツ 人事	採用担当者、面接官の目線、考えていること、学生に伝えたいこと。総政の学生時代は海外留学、海外放浪、SCS、卒バ委員、サークルはGEORDIEで、そしてゼミはGreeneゼミで、激しく「止まったら死ぬ」くらいの勢いで動き続けていました。忙しかった記憶しかありません。総政でかなりやり切って卒業した人の一人では、と思います。新卒で外資系ITのヒューレット・パッカード社で約5年半、そして今は現職で約4年の社会人経験約10年弱です。キャリアは基本は人事です。ただキャリアのスタートは営業で、事業戦略やリストの実施等も経験しました。人事でも特に採用が中心です。主に中途採用です。面接した人の数は1000をゆうに超えると思います。経験を通じて色々なことを感じ、蓄積してきています、特に「人材」に関しては、言うことはいくらでもあります。また、業界がらコンサルティング業界全般についてもかなり網羅できると思います。 <b>【キーワード】①人事/採用 ②採用担当者 ③コンサルティング業界 ④会計・監査業界(いずれのキーワードでも、それなりのお話とコンテンツを提供できると思います)</b>
6 広告業界 でのキャ リアパス	神保 康介 2004卒 Greeneゼミ アサツー ディ・ケイ 営業	大学時代は、グリーンゼミでモーレツなグループワークをしたり、SCS主催学内イベントの広報のお手伝い等をしていました。新卒で新聞社系の代理店に入り、その後転職して、現在のADKに移りました。職業を選ぶ、ということはその後の人生において6,000回くらい屋メシを食い、2,000回くらい飲みに行く人たちがいる業界を選択するということだと捉えており、比較的にシコオモシロい人間が多そうな広告業界に入りました。ビール好きが高じて、最近ビール会社の(しかも愛飲ブランドの)担当となったのはいいが、忙しすぎてビールが飲めなくなってしまったのが最近の悩み。 <b>【キーワード】①広告会社の営業とは ②広告業界のキャリアパスについて</b>
7 「好き」を 仕事にする	村井陽介 2003卒 Rossゼミ (株)電通	総政時代は大学祭実行委員会に所属して、365日中333日くらい、学祭のことやってきました。就職活動をするも内定ゼロ。全く勉強してこなかったせいで、「俺はもっと勉強したい!」とまったく説得力のない言葉で親を説得して、名古屋大学大学院の国際開発研究科に進学。必死に勉強するつもりが、2年のうちの半年をJICAでインターン生として過ごし、最終的に国際協力とは無縁の広告業界へ就職。そして、ひよんなことからコピーライターになり、ひよんなことからカンヌで賞なんかももらって、今度はひよんなことから、会社のお金でMBA留学をすることになりました。何かと噂だけがひとり歩きしがちな会社ですが、半分は本当で、残りの半分は誇張された本当です。ということで、電通の正体、自分の知っている範囲でお伝えできればと思います。 多様な業界に就職しているたくさんの卒業生が集まると聞いているので、最初に電通のことを説明させていただきます。その後はさらに広告のこと、特にクリエイティブに興味があるという人向けにプログラムを組みたいと思います。退席も途中参加も自由です。 第1部 13:30 - 14:00 裸の電通 第2部 14:10 - 15:00 広告のクリエイティブって、何よ? ~国内外の事例から見る最新クリエイティブ~ 第3部 15:10 - 15:30 ぶっちゃけトーク~要はQ&A~

8	憧れ ワーク ★ エアライン	福田 ひとみ 2008卒 Sawyerゼミ アリタリア・イタリア航空会社 (Alitalia) 客室乗務員	<p>大学時代はSawyerゼミで、英語教育・異文化コミュニケーションについて研究していました。サークルはダンスサークルNey-Kidに4年間所属し、かけがえのない仲間たちと出会えました。3回生の終わりにアリタリア航空への入社が決まり、その3ヶ月後の4回生の7月から、同級生より一足先に社会人となりました。その後の10ヶ月間は学生と社会人との二足のわらじを履きながら、仕事はもちろんのこと、ゼミやサークル活動にも力を入れ、翌年3月に無事に大学を卒業できました。今は社会人7年目、月に2～3往復、日本(関空)ーイタリア(ローマ)間のフライトを担当しています。イタリア路線に搭乗されるお客様は、ほとんどがご旅行で利用される方々です。飛行機に乗った瞬間から素敵な思い出が始まるよう、快適な空の旅のお手伝いが少しでもできるように日々頑張っています。</p> <p><b>【キーワード】 航空業界</b></p>
9	女性の ライフ & ワーク	大坪 裕子 2002修士卒 福田ゼミ 株式会社 ラヴェリオリンクスタッフ 営業	<p>入学は一期生、卒業は二期生。ゼミは学部1回は鈴木實ゼミ、3回から博士前期までは豊生ゼミと、濃いところに所属。エジプト遊学したり、売れないモデルしたり、遊んだり、挫折したり、プチ起業したり・散々好き放題して「自分探し」したのち、やっと現職に辿り着き、関学IBAの科目履修生もしつつ、充実した日々を送っています。働くこと、オンナであること、一人の人間であること・色々お話しできればと思っています。</p> <p><b>【キーワード】 ①「オンナ」と「キャリア」 ②人材サービス ③好きなことをする ④思考は現実化する</b></p>
		吉田 有加里 2010卒 中野ゼミ 株式会社マザーハウス 販売スタッフ	<p>現在、社会人4年目。システム会社でシステムエンジニア、人事部を経験したのち、結婚を機に転職。現在は株式会社マザーハウスで販売スタッフをしています。女性のキャリアという部分で、私もまだまだ開拓途中ですが、みなさんの少し前を行く立場からお話できたらと思っています。仕事って楽しいものですよ！ 在学中は、フェアトレードカフェの運営、三田市の市民活動推進プラザスタッフ、介護スタッフなど様々なことを経験しました。各活動で学んだこと、またそこで築いた人脈が現在の私を支えてくれています。どんな軸を持って大学生を送るのか、一緒に考えましょう♪♪</p> <p><b>【キーワード】 ①女性は結婚、出産…でもキャリアも！ ②在学中のすすめ ③人生の軸</b></p>
		多田 渚 2013卒上野ゼミ ワンハイラインズ株式会社 貿易事務	<p>大学時代は、関学よさこい連災流やCLUB GEORDIEに所属し、精力的に大学生活を過ごしていました。ゼミでは、モンゴルでのフィールドワークを自分たちでつくりあげました。大学4年次に、台湾へ10か月留学し、帰国後台湾資本の外資系海運会社で働いています。</p> <p><b>【キーワード】 交換留学</b></p>
10	メーカー の仕事 (ニッポン のもの づくり)	上田 益寛 2003卒Greeneゼミ 株式会社クボタ 社内SE (経営企画本部グロー バルIT化推進部)	<p>大学時代は大学祭実行委員会に所属したり、ゼミに打ち込んだりでした。新卒としてユーザー系SE企業に就職し、親会社のシステム保守、香港で外部の会社へのシステム営業+導入、またコンサルティング会社でシステムの海外導入等を経験しました。この6月からは、システム発注側としてどういったシステムを導入するのが良いのか、考える立場となりました。いろんな立場と経験を踏まえて、お話できるかと思えます。</p> <p><b>【キーワード】 ①コンサル、SE、企画 ②3社経験してます(ユーザー系SE、コンサル、システム企画) ③卒業11年目 ④海外駐在(香港2年)、海外長期出張(香港、中国、シンガポール、マレーシア)</b></p>
		吉田 智彦 2008卒Sawyerゼミ ユニ・チャーム株式会社 マーケティング	<p>大学では、ゼミにてパイリンガルを研究のほか、宝塚都市再生活動で代表を務め、大学内外で活動していました。現在、社会人6年目。4年の営業、1年半のマーケティング業務(国内ブランド担当1年半、10月より海外現地法人のヘッドクォーター業務)と経験しています。将来的には、海外で新たな市場開拓を進めたいという夢に向かって、がんばっています。私の夢・経験から、少しでも皆さんのニーズに沿った話ができればと思います。</p> <p><b>【キーワード】: ①大学での経験と仕事って結びつか ②マーケティングとはなにか ③夢をもっていきますか</b></p>
		韓 大樹 2004卒陣内ゼミ ホシザキ京阪(株)技術事務	<p>卒業後は三重大学大学院に進学しました。2006年に外資系企業に就職、その後なんやかんやで、2011年より現職です。学生時代はテキトーな目標立てて、テキトーに稼いで、テキトーな生活してました。今でもその習性があり、ときどき後悔しますが、総じて楽しい毎日です。</p>
		坂田 和繁 2003卒本田ゼミ (株)デンソー 生産管理・物流管理	<p>大学時代はガンダムと麻雀の日々でした。決してアクティブと言える学生生活ではなかったですが、いつもワイワイ楽しくやってきました。第1回ソフトボール大会の優勝チームに所属してました。本田ゼミ出身です。思い出はオランダでの研修。地元は愛知県。愛知にだけは戻りたくなかったものの、東京、大阪での就活に失敗し、記念受験的に受けた今の会社で内定を貰って、今に至ります。入社後生産管理一筋。生産管理って言葉はよく聞くけど、何やってるの？ 教えます！14年1月から海外出向予定です。</p> <p><b>【キーワード】 ①帰国子女 ②メーカー ③生産管理 ④BEATLES①生産管理とは？ ②メーカー ③海外で仕事したければ何が必要？ ④仕事が出来なくても周りに好かれる人になろう！</b></p>
11	航空宇宙 の世界で 働く	高山 恵治 2003卒 Greeneゼミ Mitsubishi Heavy Industries Negotiator	<p>学生時代はパイロット志望で、最終試験合格したけど、健康診断(視力)で落とされて、自動車会社に就職したものの、夢をあきらめきれずに飛行機会社に転職して、「風立ちぬ」の舞台上でハードな毎日だけど、この星にたしかな未来を創るべく日々奮闘している男闘呼の話。就社ではなく、キャリアに興味がある方は気が合うと思います。大学時代はSCSとビジネスコンテストをつくりました。卒業後は東海地区のOBOGが繋がる団体をつくりました。キャリア概論のスピーカーとして時々上ヶ原に行ってます。人生楽しくいきましょ。</p> <p><b>【キーワード】①就職して転職 ②君達に武器を贈ろう ③別に働かなくてもいいんでない？ ④映画を年400本観ると見えてくる世界</b></p>

12	IT業界の仕事	今堀 陽平 2003卒Rossゼミ 日本オラル(株) 営業	学生時代から、特に専門性や特技も無く、自らのポテンシャルで勝負出来ると信じ、就職活動に挑む。何とか就職出来た先で、そこそこ出来たと感じながらも、この会社で出来る事の限界と自分のやりたい事とのGAPや、仕事に対する向き合い方などを改めて考え直し、現職にいたる。世界のIT業界TOPを走るOracleという会社で、この地域に何を残すか、IT業界でどうやって自分の名を馳せるか、どうやって金を稼ぐかを、日々考えている営業です。営業職を目指す方とは話が合うと思います。ちなみに、学生時代は、遊んでしかいませんでした。。。 【キーワード】①7年目にして転職 ②IT企業/外資系 ③営業スキルとは？営業はロールプレイングです。
13	総政1期生の国際キャリア	岩谷 裕司 2001卒 高畑ゼミ 小林製菓	大学時代は、高畑ゼミで心理学を研究。サークルは軽音のDeep Streamに所属。社会人13年目。入社後は営業で5年、マーケティング関連で2年。その後経営企画部門にて、企業買収や経営トップの秘書業に従事した後、中国(北京)への企業留学を経て国際事業部へ。現在は再び経営企画にて、経営トップの秘書・戦略スタッフに。 【キーワード】自分自身のやりたいことを探す。就職、仕事をするこの意味とは？など、卒業の先の自分の歩む道について、気になっていることなどを質疑を中心にござっばらんに話できればと思います。
14	公務員のお仕事	岩崎謙二 2010卒窪田ゼミ 三田市役所 事務職員	聴覚障がい学生支援(ノートテイク)や政策・情報学生交流会、SA、SR等に関わった学生時代。卒業後は金融機関に入社し(銀行・保険・証券ではない)、審査や企画、システム対応等に2年間携わりました。そして何を思ったか、全く興味のなかった公務員になり、市役所勤務2年目。いまの仕事は窓口対応と統計、予算、データベース、システム等がキーワード。いろんな仕事してます。 【キーワード】①公務員 ②民間からの転職
		杉本 定之 2013卒亀田ゼミ 奈良県庁 総合職(行政)	学生時代は、キャンパス自立支援室にて、聴覚障がい学生に対する修学支援活動を、学生スタッフとして支えてきました。また、亀田ゼミ出身でリサーチフェアに向け、徹夜で研究に没頭する事もありました。社会人としての経験は未熟ですが、現役生に近い立場から就職活動や、学生生活について相談に乗る事ができればと思います。 【キーワード】①学生時代に取り組んだこと ②就職活動に向けた準備 ③公務員の仕事について
		崎田 隆義 2008卒園田ゼミ 防衛省・陸上自衛隊 普通科	大学で安全保障を研究したのがきっかけで、今の職に就きました。任官後は総政時代に鍛えて頂いた英語を活かして、海外派遣や米軍との訓練等幅広く活動しています。勤務は日本全国飛び回り、忙しい日々が続いていますが、とても充実しています。この機会を通じて防衛省・陸上自衛隊のことを知って頂ければ幸いです 【キーワード】防衛省・陸上自衛隊って?? 普段の勤務はどんな感じ??
15	人をはぐくむ仕事(教員)	後野 史織 2011卒久野ゼミ 尼崎市立立花中学校 教師	大学時代は、ゼミでの活動はもちろん、サークルやバイトなどを「学生生活」を満喫していたように思います。みんなと違う就職活動の中で悩むこともありましたが、今は日々やりがいのある仕事に出会えて、本当に良かったと思っています。 【キーワード】①中学校教育 ②子どもの成長 ③特別支援教育
		山田 優介 2000卒中條ゼミ 啓明学院中学校・高等学校 数学科教員	現在神戸市にある中高一貫の私立学校にて、数学の教員をしています。公立とは違った私立学校の視点から、色々なお話が出来たらと思います。また学校のお仕事は、本当に多岐にわたっています。教員希望者の人は少しでも、教員の現状を知ってもらえたらと思います。
		大平 仁士 2009卒加藤ゼミ	大学では、加藤ゼミで都市政策(まちづくり、地理学)を研究していました。SCS、バスケットボールサークルで活動し、のびのびと大学生活をしていました。現在、社会人5年目。愛知県、三重県と転勤をしながら、教育関係の仕事に携わっています。グローバル展開している会社に勤めながら、総合職の妻と1歳の娘と今後の生活を杞憂しています。 【キーワード】①教育 ②社会人5年目 ③子育て中 ④転勤族
16	マスコミの仕事	竹田 幸平 2011卒 鎌田ゼミ 日経QUICKニュース 記者	【社会人】日本経済新聞社のマーケット速報部に当たるグループ会社に就職し、現在は企業ニュースの取材・執筆をしています。金融のチームで国際商品相場の記事を担当した時期も。人混みばかりの東京での生活もやっと板についてきました。 【学生時代】学内:質量ともに充実したゼミ生活で哲学などを勉強。就活後はPCノートテイクの活動にも動きました。学外:記者の道へ進もうと国内外を奔走。CVSという団体でアメリカへ短期留学し、メキシコ国境の町・ティファナを訪れる。他にドラマ「あまちゃん」舞台の岩手・久慈に行ったり、出版社の週刊誌編集部で2か月間アルバイトをしたりしていました。 【キーワード】①記者 ②社会人3年目 ③学外活動のすすめ
		櫻井祐貴 2012院卒小池ゼミ サンテレビ マスコミ(営業)	大学では、小池ゼミでオバマ政権の外交政策を研究していました。(ちなみに1期生のゼミ長です!)大学院に進学し、同じテーマを研究。昨年修士課程を修了した社会人2年目です!就活、進学、教職、課外活動、アルバイト・・・一通り経験してますので、進路や学生生活に関して悩んでいる人は聞いてやってください! 【キーワード】①大学院進学という道 ②就活あれこれ ③テレビ局の営業のお仕事(テレビ局の仕事って?・広告業界って?)
		樋江井 亮 2013卒柴山ゼミ (株)毎日放送 マスコミ(テレビ営業)	大学では、柴山ゼミに所属し、軍事、外交、近代史、安全保障を学んでおりました。また、体育会サッカー部に所属し、部活にのめり込む毎日をご過ごしてきました。まだ社会人一年目で、分からないことが多く、皆様にとって役立つ話をする自信はあまりありません。しかしそれを逆手に取り、学生に一番近い存在として思うことを話せれば・・・と思います。宜しくお願い致します。 【キーワード】①就活について思うこと ②テレビ局の営業とは ③「学生時代」を終えて思うこと
17	起業家!(ベンチャーを興す)(次頁に続く)	藤井 弘樹 2005卒古川ゼミ (株)イデアラボ コンサルタント・SE	学生時代は組織行動やリーダーシップについて研究していた他、軽音サークルSpringUp創設者の一員として活動したり、留学団体YFUでボランティア活動したりの4年間でした。新卒では、従業員数150名ほどのIT企業に入社、5年ほどSEとして働いていました。その後、2010年に中学～大学時代の同期とイデアラボを設立、現在はヒトの行動や感性を測る仕組み作りと経営に従事しています(イデアラボのHP: <a href="http://www.idea-lab.co.jp/">http://www.idea-lab.co.jp/</a> )。 【キーワード】1. SE 2. 起業しました 3. 中小企業

17	起業家！ (ベンチャーを興す) (続き)	<p>内田 圭祐 2004卒古川ゼミ 移動中東海林株式会社 代表取締役</p>	<p>学生時代はSCSやクラブジョーディー(サークル)で、ほぼ朝から晩まで、何かを企画/実行する日々を送り、古川教授の御慈悲で卒業できました。新卒で入社したリクルートスタッフィングで3年間、悶々とした日々を過ごし、その後1年間放浪、1年半Web制作会社で修行し、インターネットサービスの会社を立ち上げました。今年の春に初期の事業を売却し、今は第二創業期のベンチャーです。今の仕事は、大学時代のサークル活動の時にやっていることと殆ど変わらず(コンセプト的にも、仕事のスタイルも)、強いて言えば自己破産というパンチの効いたルールの中でやっている点が異なるかと思います。</p> <p><b>【キーワード】 大事な事はみんなエコファームから教わった</b></p>
		<p>長谷川 博章 2003卒古川ゼミ リレーションズ株式会社 代表取締役</p>	<p>1980年生まれ。関西学院大学総合政策学部卒業後、コンサルティング会社に就職。多くの事業立ち上げに携わった後、2009年に独立し、リレーションズ株式会社を創業。街中どこでも自由に自転車の貸出・返却ができるCOG00(コグー)や、企業の間接費コストの低減や資源の節約などをコンサルティングするLess is plus等、マイナスの状態にある問題をビジネスを通じてプラスに転換していくという「b++」をビジョンに、多くの事業を立ち上げている。</p> <p><b>【キーワード】 起業、イノベーション</b></p>
		<p>井川 沙紀 2003卒今泉ゼミ George's Donuts Corporation 新規事業担当/広報</p>	<p>就職活動を経て人材会社に入社し、東京へ。入社後すぐ新規事業の立ち上げ部署に配属され、毎日終電の日々...そこから新規事業人生がスタートします。1社目で3つの新規事業立ち上げに従事。面白さに魅了され、ベンチャーキャピタルへ入社。そこで「広報」という仕事に出会います。ベンチャー立ち上げ期の広報だからこそ、事業成長に貢献できる面白さを感じ、10社ほど立ち上げ広報を経験。その後自身で事業立ち上げサイドでビジネスしたいと考え、アメリカのプレッツェル専門店の日本立ち上げに従事。3年で17店舗へと成長させました。現在は今年9月より、日系企業が立ち上げたハワイベースの会社で、ハワイへ移住し現地で飲食店の立ち上げを担当します。</p> <p><b>【キーワード】 広報、新規事業、がっつり働く女子の実態、ベンチャーの面白み、起業思考、女性が長く働くということ</b></p>
18	経営者のお仕事(社長はこのように考える！)	<p>小杉 崇浩 2000卒渡部ゼミ NPO法人WELnetさん代表理事</p>	<p>NPOという選択 ~新たな可能性を求めて~ ①NPOとは、②NPOで働くということ、③こんな時代だからこそ、敢えて福祉を！ 総合政策研究科在学中に、NPO法人WELnetさんだを設立。「すべての市民が暮らしやすいまちづくり」を基本理念に、三田市を中心にコミュニティビジネスを実践中。</p>
		<p>末松 仁彦 2004卒久野ゼミ 株式会社パーテック 工業用ブラシ製造業</p>	<p>大学時代は大学に通いながら、父が経営する会社で仕事もしていました。卒業後、父の会社に入社、その後営業、開発、経理等様々な部署を経験し、27歳で事業を引き継ぎ代表取締役社長になりました。就任後、リーマンショックや震災等もありましたが乗り越えて、現在社長6年目。趣味：トライアスロン</p> <p><b>【キーワード】 経営・親の事業を継ぐかどうか・中小企業</b></p>
19	STARTUPの世界へようこそ	<p>二宮 明仁 2005年中條ゼミ ハッチ株式会社 創業者兼代表取締役 所属サークルは望郷(キャンパスにまつわる情報をあつめたポータルサイトの構築と運営)</p>	<p>STARTUPの世界へようこそ~「はたらく」ことの価値観が変わります。まだ総合政策学科しかなかった時のKSCで、Web DesignとProgrammingを独学で学び、キャンパスポータルサイトを構築運営した大学時代。その後サイバーエージェントでメディア運営・広告営業をやった後、「よりベンチャーなところで戦いたい」と思い、23歳の時にグリー株式会社に19番目の社員として入社。その後会社の急成長を支えるプロダクトを立て続けにヒットさせ、アメリカ支社の立ち上げに奔走。通算7年半、PMや経営陣としての経験を積んだ後、退職して「ITで教育を変える会社をつくりたい」と思い、2013年にEdTechStartupを起業。Techベンチャーで働く魅力や困難。業界の今、技術のこれから。海外勤務の実際など色々お話をできればと思います。</p> <p><b>【キーワード】 (1) ネットベンチャー、起業、スタートアップ、Tech、シリコンバレー、(2) Twitter, Facebook, LINE, GREE, DeNA, サイバーエージェント, Yahoo!, Google, 楽天 (3) 「海外で活躍する」「世の中にない新しい価値を産み出す」「自分のベンチャーを成功させる」</b></p>
20	SEの仕事(次頁に続く)	<p>吉澤 秀治 2000卒 片寄ゼミ アビームシステムズ(株) システムエンジニア</p>	<p>学生時代は、ゼミは片寄ゼミでまちづくりを研究し、交流会のスタッフやSA(今のSCS)、学生新聞づくり等充実した学生生活を送るも、就職活動の結果、なぜかまったくの門外漢だったシステムエンジニアという職業につき、「企業の基幹システムの構築」などという、それまで聞いたこともない分野の仕事に携わることになる。6年間の東京生活の後、今の名古屋の会社に転職。学生時代には想像もつかなかった自分の姿に戸惑ったり、意外と勤められている自分に驚いたり。そんな経験から皆さんにアドバイスできればと思っています。</p> <p><b>【キーワード】 ①「企業向けシステムを作る」という仕事 ②エンジニア?コンサルタント?</b></p>
		<p>国枝 功 2005卒鎌田ゼミ コベルコシステム(株) システムエンジニア</p>	<p>大手鉄鋼メーカー様向けのシステム開発・運用・保守を仕事にしています。SEはIT知識や業務知識、プロジェクト管理スキルなど、様々なスキルが必要で、とても大変だと思う反面、やりがいも大きいです。当日はIT業界の構造から、システム屋のやりがいや悩み、気軽な就活相談から学生生活の相談まで、ざっくばらんに皆さんとお話できればと思っています(社会人9年目)</p> <p><b>【キーワード】 ①IT業界 ②SE ③プロジェクトマネジメント</b></p>

20	SEの仕事(続き)	大野 泰司 2010卒長峯ゼミ コベルコシステム(株) システムエンジニア	大学時代は長峯ゼミで地域活性化、持続可能なまちづくりについて研究していました。また、大学祭実行委員会の企画局長として、お笑いライブや講演会などのとりまとめをしていました。当時はパソコンの操作にも不慣れで、自分がまさかIT業界で働くことになるとは思いませんでした。今では社会人4年目となり、プロジェクトマネージャーとして小規模なプロジェクトを担当しています。自然やアウトドア全般が好きです。今のところ、やりがいを感じながら仕事できてます。 <b>【キーワード】</b> ①システムエンジニアとは ②文系出身でもSEになれる ③卒業後3年
		万仲龍樹 2001卒鎌田ゼミ 日本IBMシステムズ・エンジニアリング(株) システムエンジニア	1997年入学の総合政策学部3期生です。鎌田ゼミに所属して、哲学・社会学の観点から総合政策ってどう考えればいい? といったことをテーマにしていた日々でした。大学卒業後現在の会社に入社し、システム・エンジニアとして今年で13年目になります。 <b>【キーワード】</b> システムエンジニア
21	社会人1・2年目	大野 絢子 2013卒 Sawyerゼミ (株)リンクアンドモチベーション 営業	《大学在学中》基礎ゼミ:柴山ゼミ・3~4年:ソーヤーゼミ・学業成績 学部TOP10受賞・議員秘書のインターンシップ参加・英語中期留学参加(2010年秋学期)・大阪市学習指導員ボランティア・市立伊丹高校土曜日英語講師・AIESEC海外インターンシップ@ポーランド参加・長期休暇中はほぼ海外に…(学生時代に訪れた国:カナダ・アメリカ・メキシコ・チリ・韓国・台湾・インドネシア・タイ・ベトナム・オーストラリア・インド・ポーランド・ドイツ・フランス・イタリア・フィンランド)・アルバイト(塾講師・家庭教師・水泳インストラクター・カフェ店員・海遊館スタッフ・アパレルスタッフ) 《大学卒業後》・新卒で経営コンサルティング会社、(株)リンクアンドモチベーションに入社・企業の組織変革のための教育・研修事業部で、大手担当の営業として奮闘中 <b>【キーワード】</b> ①営業 ②社会人一年目 ③就職活動 ④女性の働き方
		浅野由香梨 2013卒亀田ゼミ 社会人 営業	学生時は、国際ボランティアや震災ボランティアをはじめ、よさこいサークルに所属するなど、様々なことを行ってきた。一つ一つの小さな点の中、現時点の自分では「社会を活性化していきたい」という夢がでてきた。今の職場を選んだのも、会社としても「Empowerment」を謳っていたためです。まだ個人として、どのようにすれば自分の夢がかなうのか分からないですが、異なる点を探す営業のため、歩きながら考えています! <b>【キーワード】</b> 社会人1年目
		平松 恵美 2013卒Sawyerゼミ 裕進観光株式会社 ANAクラウンプラザホテル京都 サービス業	大学時代はMark D. Sawyer ゼミに所属しており、ゼミ仲間と多文化共生について個々の意見を伝え合う楽しさを知りました。テニスサークルK.G. WinGでは会計を一年務め、とても有意義な大学生活を送る事が出来ました。またホテルに就職した後も、客室乗務員になる夢を諦めず、挑戦し続けています。 <b>【キーワード】</b> 社会人1年目
		長澤由布紀 2012卒デキキスゼミ 野村證券(株) 営業	大学時代は大学祭実行委員、アメリカに交換留学等していました。社会人2年目でまだまだ経験が浅いですが、みなさんの疑問や不安に少しでもお答えできればと思っています。 <b>【キーワード】</b> 営業
		岡田 真由香 2012卒上野ゼミ ロート製薬株式会社 マーケティング企画部 商品企画	大学時代はアルバイトをして、お金を貯めては海外へ一人旅をしたりして、自由気ままに過ごしていました。特にアジアを中心に旅していたため、海外へ日本の品質のいい商品を届けたいという想いがあり、メーカーへの就職を決めました。今は日本で商品企画に携わっています。 <b>【キーワード】</b> 営業商品企画・メーカー・社会人2年目・一人旅
22	総合商社で働く	戸山 昌宏 2012卒小池ゼミ 双日株式会社 人事(国内・海外)	外国人の人と一緒に働いたり、海外政府(発展途上国)・日本政府の人と関わる仕事をしています。勿論、社内の人事の仕事もしています。人事の仕事に興味がある方や、海外で働くことに興味がある方は、是非お越しください。 <b>【キーワード】</b> ①海外②総合商社③外国人と働く
23	自分に素直に生きる(議員秘書のライフ&ワーク)	大久保信克 2011卒小西ゼミ 衆議院議員いさか信彦 事務所秘書	【プロフィール】 大学時代は、主に「笑い」や「政治哲学」を学ぶ・関西学院交響楽団では部長を務める・卒業後、『日本でいちばん大切にしたい会社2』掲載(株)沖縄教育出版に就職・沖縄の古民家でルームシェア・ラフターヨガリーダーの資格を生かして、社内外で笑いによる心身の健康効果を広げる・2013年1月、神戸選出の衆議院議員 井坂信彦(39才)の秘書に転職 【内容】 国会議員の秘書の仕事や、大学時代から関わっている志ある若手政治家集団の話、他にもライフワークとして行なっているラフターヨガや、沖縄での生活の話など、参加者の方々に合わせてお話できればと思います。 <b>【キーワード】</b> ①笑い ②アウトサイダー ③人生相談

注:テーマ、チューター等には、追加・変更等の可能性があります

# Research Fair 2013 presents

## 授賞式・懇親会

発表形式ごとに最優秀賞受賞者の発表・授賞のほか、発表者・参加者・同窓会の先輩が楽しく語る場です

ぜひ、ふるってご参加下さい

日時：11月16日(土) 16時30分より  
第三厚生棟にて

## 卒業パーティ実行委員メンバー募集中★

実行委員メンバーです★  
みんな仲良く明るく  
楽しく！頑張っています  
"... ☆... (▽`人)

4年間三田で過ごしたのに、  
なぜか卒業式は上ヶ原！  
そんなの寂し過ぎると思いませんか？  
その寂しさを解消するのが・・・



阪急宝塚ホテルで卒業式後に行われる  
総合政策学部による総合政策学部だけの卒業パーティ!!!



毎年7割を超える卒業生に参加頂き、  
今年で16年目になります★  
パーティの企画や司会進行、会場手続き etc.  
すべて自分たちで行います♪



去年のスタッフは、先輩の  
笑顔と「ありがとう」の言  
葉でみんな号泣しました。  
感動とやりがいを分かち合  
える、そんなサークルです。

...So, Why Don't You Join Us!?

活動は主に春期休暇中となります！  
イベントの企画に興味のある方、少しでも気になる方  
質問があれば下記連絡先までお願い致します。

能勢真人（総2） [aqa32917@kwansei.ac.jp](mailto:aqa32917@kwansei.ac.jp)

☆本年度も、3月18日（火）の上ヶ原での卒業式後、総合政策学部卒業記念パーティーが計画されています。卒業予定者の方は、是非、ご参加ください。

2013年11月13日（水）発行  
関西学院大学総合政策学部  
リサーチ・フェア実行委員会